

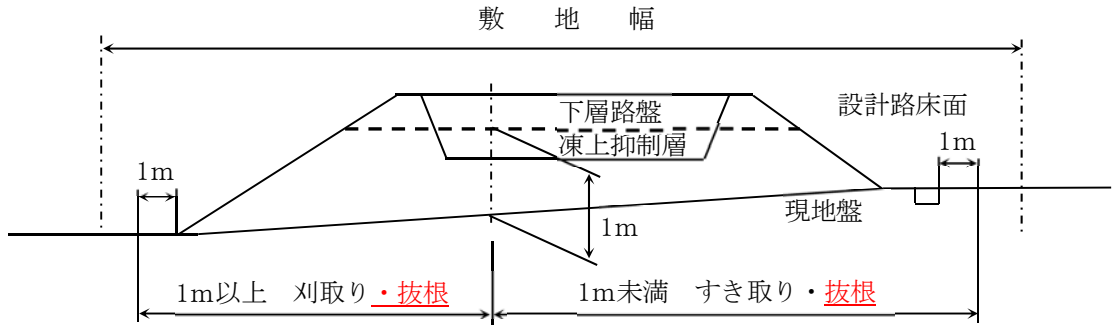
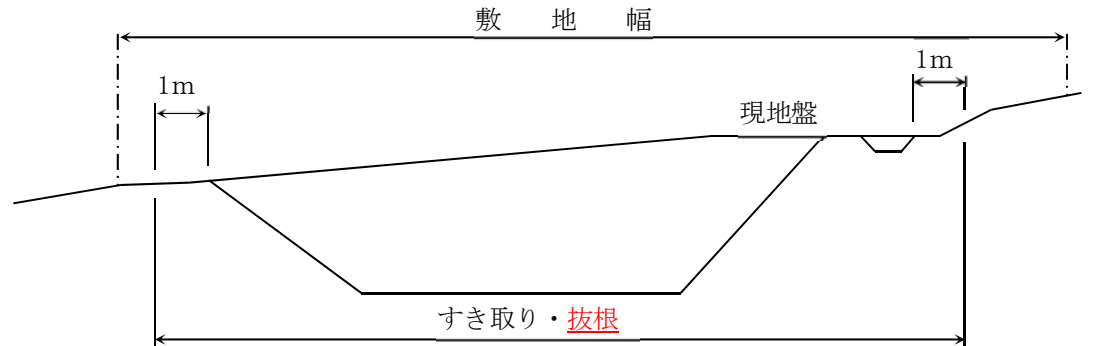
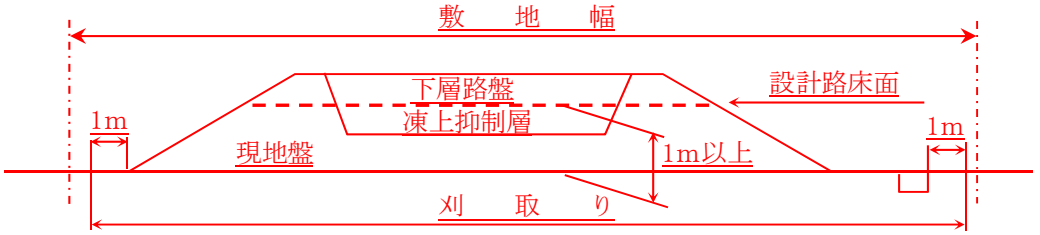
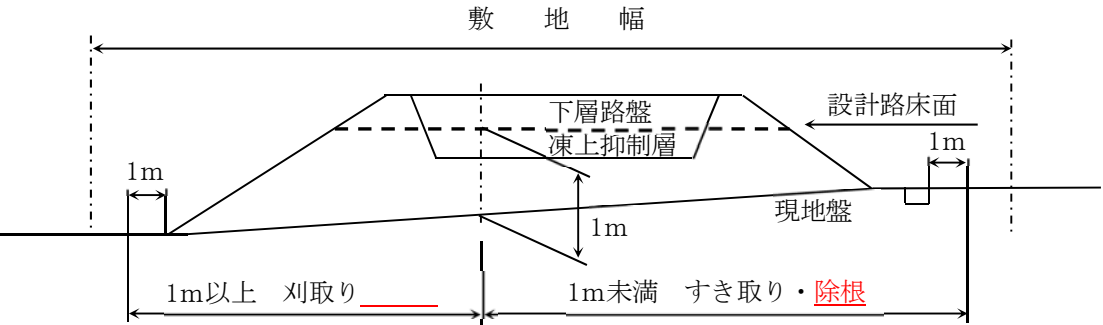
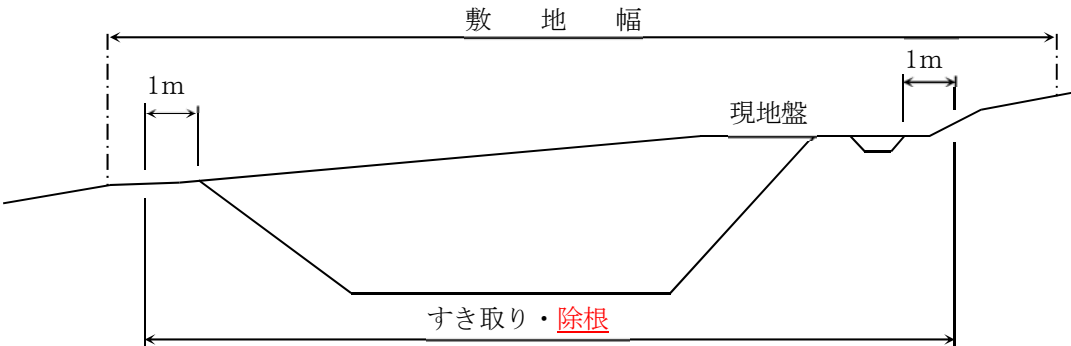
令和5年3月22日以降適用 工事数量算出要領 新旧対照表

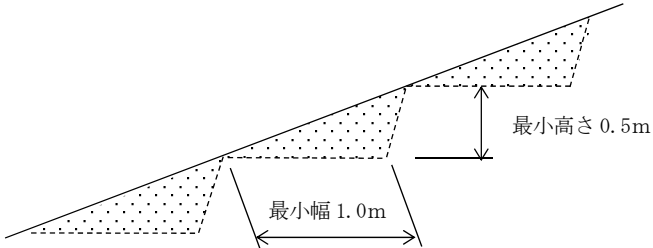
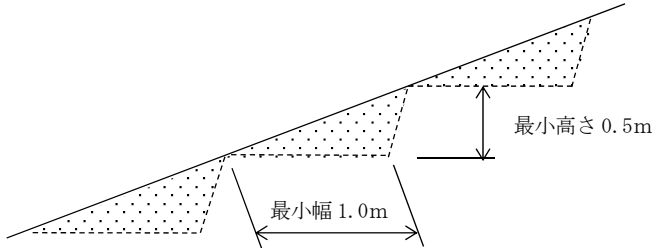
目次

- 2章 土工
- 3章 コンクリート工
- 5章 擁壁工
- 7章 基礎工
- 8章 構造物取壊し工
- 9章 仮設工
- 10章 護岸根固め工
- 13章 道路工
- 14章 道路附属施設工
- 15章 鋼橋上部工
- 17章 橋台・橋脚工
- 19章 管水路工
- 21章 ほ場整備工
- 22章 農地造成工

(白紙)

改 正	現 行	備 考																																													
<p>2章 土工</p> <p>2.1 伐開工</p> <p>① 工事を施工するために必要な伐開（除根、除根物集積・積込、草刈、刈取り物集積・積込、すき取り・集積、すき取り物積込）は共通仮設費（準備費）の率の対象項目に含まれている。（農用地造成工事を除く）</p> <p>【省略】</p> <p>④ 参考</p> <p>(1) 伐開工の面積算出 伐開面積の算出に当たっては、下記の点に留意する。</p> <p>【省略】</p> <p>(2) 伐開工の運用区分</p> <p style="text-align: center;"><u>伐開除根作業（道路）</u></p> <table border="1" data-bbox="195 751 1282 955"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>雑草・笹類</th> <th>倒木</th> <th>古根株</th> <th>立 木</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>盛土高 1mを超える場合</u></td> <td>地面で刈り取る</td> <td>除去</td> <td><u>抜根除去</u></td> <td>同 左</td> </tr> <tr> <td><u>盛土高 1mを以下の場合</u></td> <td>根からすき取る</td> <td>除去</td> <td><u>抜根除去</u></td> <td>同 左</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;"><u>伐開除根作業（河川）</u></p> <table border="1" data-bbox="195 1031 1282 1272"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>雑草・笹類</th> <th>倒木</th> <th>古根株</th> <th>立 木</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>土工に関係ない用地内 利用土としない切土箇所 軟弱地盤</u></td> <td><u>地面で刈り取る</u></td> <td>除去</td> <td><u>根元で切り取る</u></td> <td><u>同 左</u></td> </tr> <tr> <td><u>河川築堤盛土 (軟弱地盤を除く) 土取場</u></td> <td><u>根からすき取る</u></td> <td>除去</td> <td><u>抜根除去</u></td> <td><u>同 左</u></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	雑草・笹類	倒木	古根株	立 木	<u>盛土高 1mを超える場合</u>	地面で刈り取る	除去	<u>抜根除去</u>	同 左	<u>盛土高 1mを以下の場合</u>	根からすき取る	除去	<u>抜根除去</u>	同 左	区 分	雑草・笹類	倒木	古根株	立 木	<u>土工に関係ない用地内 利用土としない切土箇所 軟弱地盤</u>	<u>地面で刈り取る</u>	除去	<u>根元で切り取る</u>	<u>同 左</u>	<u>河川築堤盛土 (軟弱地盤を除く) 土取場</u>	<u>根からすき取る</u>	除去	<u>抜根除去</u>	<u>同 左</u>	<p>2章 土工</p> <p>2.1 伐開工</p> <p>① 工事を施工するために必要な伐開（除根、除根物集積・積込、草刈、刈取り物集積・積込、すき取り・集積、すき取り物積込）は共通仮設費（準備費）の率の対象項目に含まれている。（農用地造成工事を除く）</p> <p>【省略】</p> <p>④ 参考</p> <p>(1) 伐開工の面積算出 伐開面積の算出に当たっては、下記の点に留意する。</p> <p>【省略】</p> <p>(2) 伐開工の運用区分</p> <table border="1" data-bbox="1457 751 2543 961"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>雑草・笹類</th> <th>倒 木</th> <th>古根株</th> <th>立 木</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>設計路床面まで 1m以上の 盛土箇所及び軟弱地盤</u></td> <td>地面で刈り取る</td> <td>除 去</td> <td><u>根元で切り取る</u></td> <td>同 左</td> </tr> <tr> <td><u>設計路床面まで 1m未満の 盛土及び切土箇所または土 取場</u></td> <td>根からすき取る</td> <td>除 去</td> <td><u>除 根</u></td> <td>同 左</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;"><u>[追加]</u></p>	区 分	雑草・笹類	倒 木	古根株	立 木	<u>設計路床面まで 1m以上の 盛土箇所及び軟弱地盤</u>	地面で刈り取る	除 去	<u>根元で切り取る</u>	同 左	<u>設計路床面まで 1m未満の 盛土及び切土箇所または土 取場</u>	根からすき取る	除 去	<u>除 根</u>	同 左	<p>字句の追加</p> <p>表内、字句の改正</p> <p>表の追加</p>
区 分	雑草・笹類	倒木	古根株	立 木																																											
<u>盛土高 1mを超える場合</u>	地面で刈り取る	除去	<u>抜根除去</u>	同 左																																											
<u>盛土高 1mを以下の場合</u>	根からすき取る	除去	<u>抜根除去</u>	同 左																																											
区 分	雑草・笹類	倒木	古根株	立 木																																											
<u>土工に関係ない用地内 利用土としない切土箇所 軟弱地盤</u>	<u>地面で刈り取る</u>	除去	<u>根元で切り取る</u>	<u>同 左</u>																																											
<u>河川築堤盛土 (軟弱地盤を除く) 土取場</u>	<u>根からすき取る</u>	除去	<u>抜根除去</u>	<u>同 左</u>																																											
区 分	雑草・笹類	倒 木	古根株	立 木																																											
<u>設計路床面まで 1m以上の 盛土箇所及び軟弱地盤</u>	地面で刈り取る	除 去	<u>根元で切り取る</u>	同 左																																											
<u>設計路床面まで 1m未満の 盛土及び切土箇所または土 取場</u>	根からすき取る	除 去	<u>除 根</u>	同 左																																											

改 正	現 行	備 考
<p style="text-align: center;"><u>[削除]</u></p> <p>1) <u>運搬盛土の場合</u></p>  <p>2) <u>切土 (利用土) 箇所及び土取場</u></p>  <p>【省略】</p>	<p>1) <u>設計路床面まで1m以上の盛土の場合</u></p>  <p>2) <u>設計路床面まで1m未満の盛土の場合</u></p>  <p>3) <u>掘削土箇所及び土取場</u></p>  <p>【省略】</p>	<p>字句の削除</p> <p>詳細図の削除</p> <p>字句及び番号の改正</p> <p>字句の追加、改正</p> <p>字句及び番号の改正</p> <p>字句の改正</p>

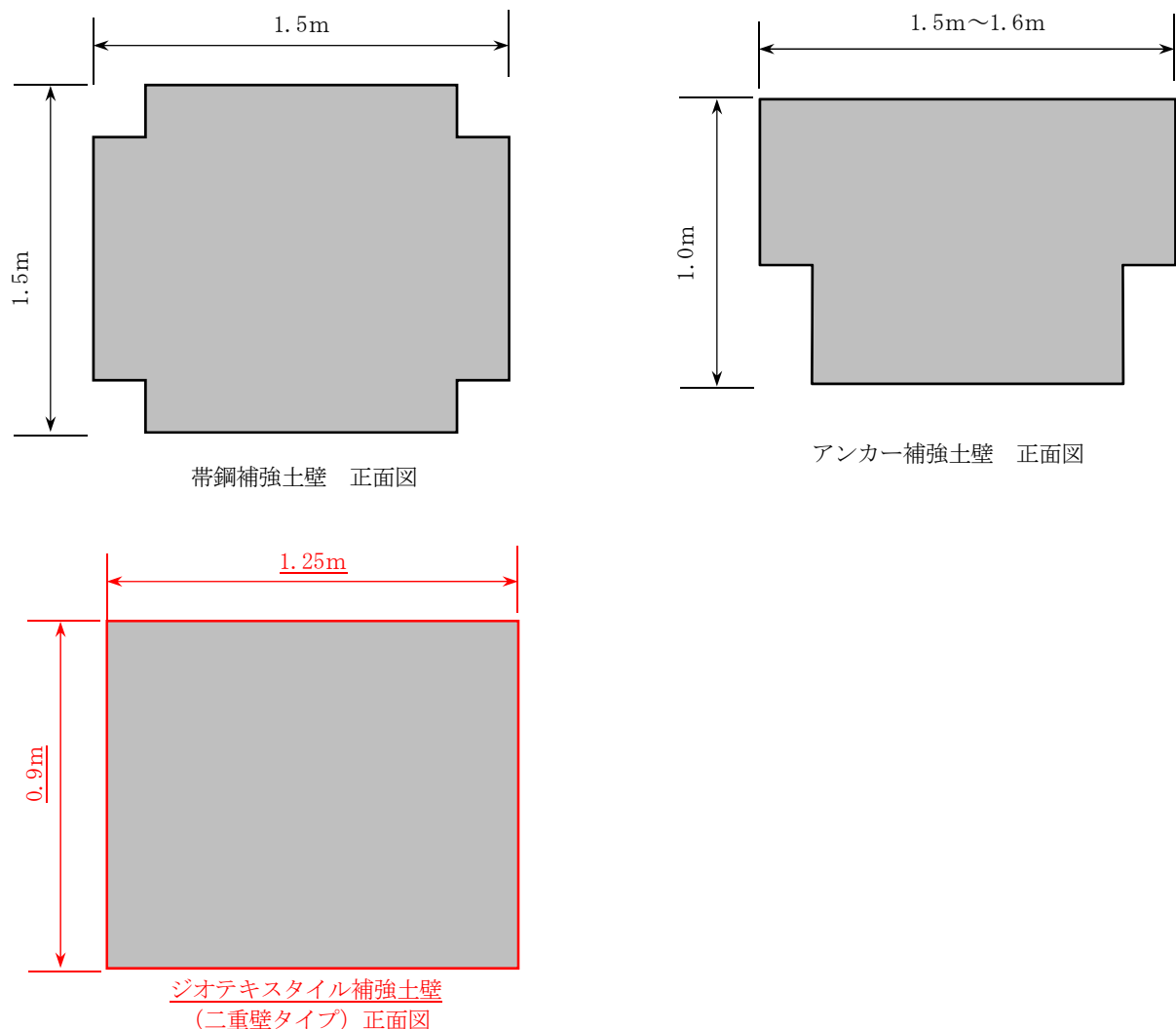
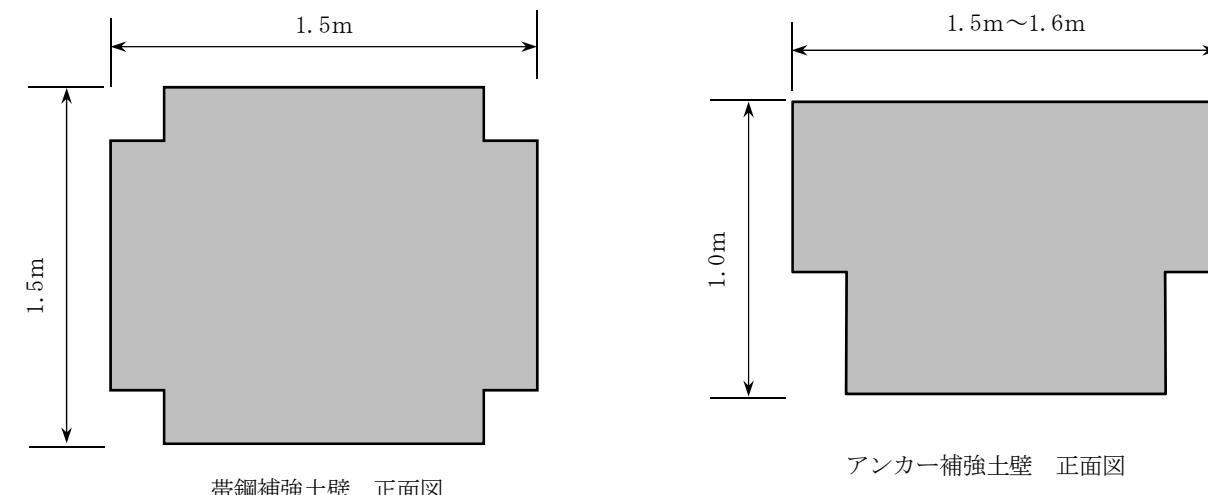
改 正	現 行	備 考												
<p>2.2 土工</p> <p>2.2.1 土工</p> <p>1 適用 水路、道路工事の土工に適用する。 【省略】</p> <p>4 数量算出方法 数量の算出は、「1章 基本事項」によるほか次の方法によるものとする。 平均断面法によることを標準とする。 土量＝平均断面積×延長 法面積＝平均法長×延長</p> <p>(1) 施工方法</p> <p>1) 掘削 <u>掘削の施工方法は、</u>下記の項目に区分して算出する。</p> <table border="1" data-bbox="240 751 967 919"> <tr><td rowspan="5">掘 削</td><td>オープンカット</td></tr> <tr><td>片切掘削</td></tr> <tr><td>水中掘削</td></tr> <tr><td>現場制約あり</td></tr> <tr><td>上記以外（小規模）</td></tr> </table> <p>【省略】</p> <p>2.2.2 土工（道路工）</p> <p>1 適用 道路工事における土工に適用する。 【省略】</p> <p>4 数量算出方法</p> <p>(1) 土工定規図、土工横断図の作成方法 【省略】</p> <p>(5) その他 段切り工</p> <p>① 地山勾配が1：4より急な勾配を有する地盤上に路体盛土工を行う場合には、共通仕様書等に基づき段切りを行う。</p> <p>② 段切りの寸法は、原地盤が土砂の場合最小高さ 0.5m、最小幅 1.0m、原地盤が岩の場合、岩表面に垂直に最小高さ 0.4mを標準とするものとする。</p> <p style="text-align: center;">段切り工（土砂の場合）</p>  <p>【省略】</p>	掘 削	オープンカット	片切掘削	水中掘削	現場制約あり	上記以外（小規模）	<p>2.2 土工</p> <p>2.2.1 土工</p> <p>1 適用 水路、道路工事の土工に適用する。 【省略】</p> <p>4 数量算出方法 数量の算出は、「1章 基本事項」によるほか次の方法によるものとする。 平均断面法によることを標準とする。 土量＝平均断面積×延長 法面積＝平均法長×延長</p> <p>(1) 掘削</p> <p>1) 断面積（道路） <u>断面積（道路）</u> 下記の項目に区分して算出する。</p> <table border="1" data-bbox="1501 751 2228 919"> <tr><td rowspan="5">掘 削</td><td>オープンカット <u>（土砂の場合、押土の有無）</u></td></tr> <tr><td>片切掘削</td></tr> <tr><td>水中掘削</td></tr> <tr><td>現場制約あり</td></tr> <tr><td>上記以外（小規模）</td></tr> </table> <p>【省略】</p> <p>2.2.2 土工（道路工）</p> <p>1 適用 道路工事における土工に適用する。 【省略】</p> <p>4 数量算出方法</p> <p>(1) 土工定規図、土工横断図の作成方法 【省略】</p> <p>(5) その他 段切り工</p> <p>① 地山勾配が1：4より急な勾配を有する地盤上に路体盛土工を行う場合には、共通仕様書等に基づき段切りを行う。</p> <p>② 段切りの寸法は、原地盤が土砂の場合最小高さ 50 cm、最小幅 100 cm程度以上、原地盤が岩の場合、岩表面に垂直に最小 40 cm程度以上を標準とするものとする。</p> <p style="text-align: center;">段切り工（土砂の場合）</p>  <p>【省略】</p>	掘 削	オープンカット <u>（土砂の場合、押土の有無）</u>	片切掘削	水中掘削	現場制約あり	上記以外（小規模）	<p>字句の改正 " 字句の追加 表内、字句の削除</p> <p>字句の改正 "</p>
掘 削		オープンカット												
		片切掘削												
		水中掘削												
		現場制約あり												
	上記以外（小規模）													
掘 削	オープンカット <u>（土砂の場合、押土の有無）</u>													
	片切掘削													
	水中掘削													
	現場制約あり													
	上記以外（小規模）													

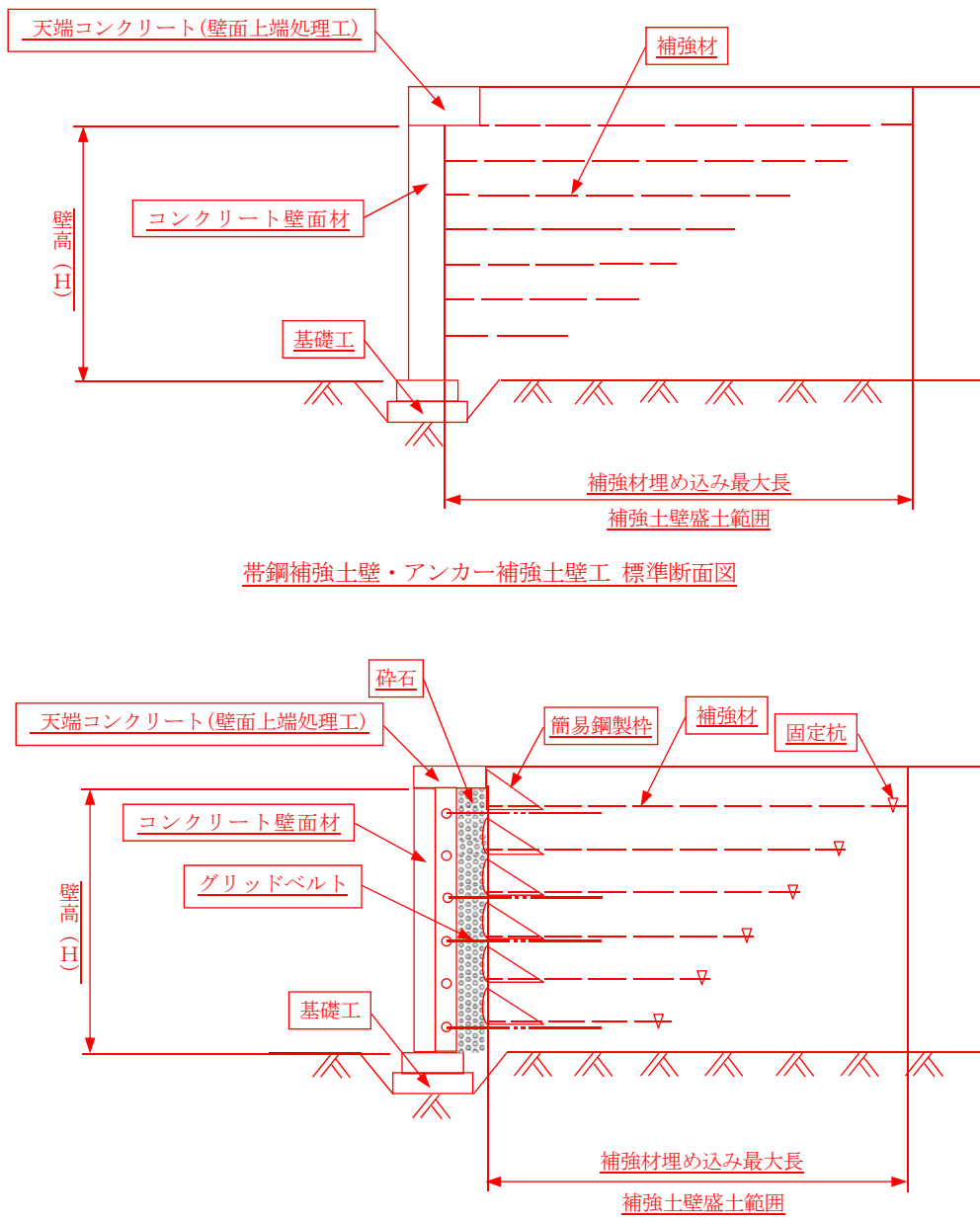
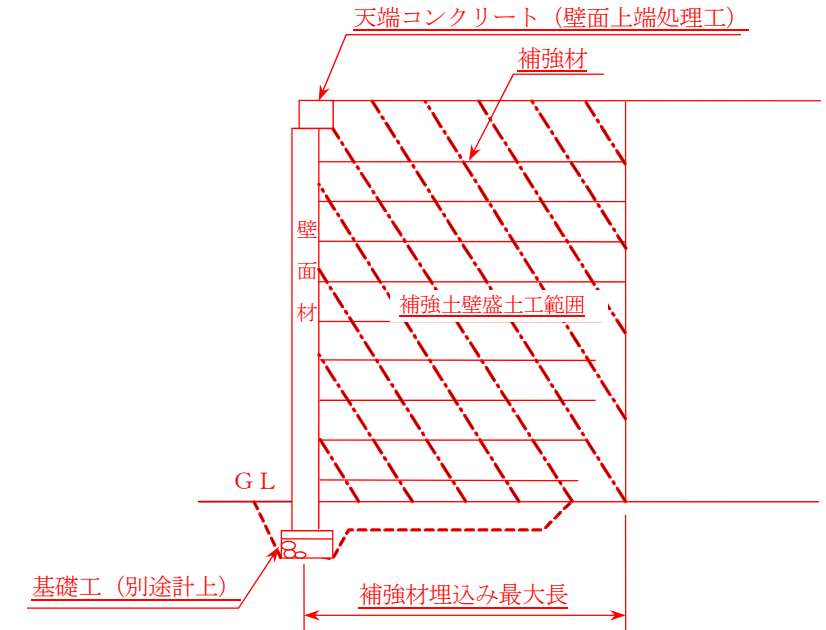
改 正	現 行	備 考																																																																																																
<p>3章 コンクリート工</p> <p>3.1 コンクリート工</p> <p>1 適用 【省略】</p> <p>2 数量計算項目 コンクリート、<u>モルタル練り</u>の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、構造物種別、施工条件、コンクリート規格、設計日打設量、養生工の種類、圧送管延長距離区分、現場内小運搬の有無、打設高さ、水平距離とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>構造物種別</th> <th>打設工法</th> <th>コンクリート規格</th> <th>設計日打設量</th> <th>養生工の種類</th> <th>圧送管延長距離区分</th> <th>現場内小運搬の有無</th> <th>打設高さ、水平距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>モルタル練り</u></td> <td></td> <td>—</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 構造物種別 <u>—</u> 構造物種別ごとに各部ごとの数量を算出し集計する。 <u>① 無筋・鉄筋構造物</u> <u>② 小型構造物</u></p> <p>(3) 施工条件区分 コンクリート日打設量、打設地上高さ及び水平打設距離で区分する。</p> <p>(4) コンクリート規格区分 使用するコンクリートの材料及び規格で区分する。</p> <p><u>(5) モルタル練り</u> <u>セメント種類は、①普通と②高炉ごとの数量を算出し集計する。</u> <u>混合比は、セメント種類ごと①1:1、②1:2、③1:3 ごとの数量を算出し集計する。</u></p> <p><u>(6) 養生工の種類区分</u> 養生工の種類による区分は、次表による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>養生工の種類</th> <th>適用内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>養生無し</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>一般養生</td> <td>一般的なコンクリート構造物の養生に適用する。</td> </tr> <tr> <td>特殊養生 (練炭養生)</td> <td rowspan="2">寒中コンクリートの養生に適用する。 養生の為の足場は別途算出する。</td> </tr> <tr> <td>特殊養生 (ジェットヒータ養生)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 練炭とジェットヒータ養生の使い分けは原則として下記とする。 ただし、現地状況、構造物規模等によりこれにより難い場合は別途考慮する。 ① 鉄筋構造物の場合はジェットヒータによる養生を原則とする。 ② 上記以外は練炭による養生とする。</p>	項目	区分	構造物種別	打設工法	コンクリート規格	設計日打設量	養生工の種類	圧送管延長距離区分	現場内小運搬の有無	打設高さ、水平距離	単位	数量	備考	コンクリート		○	○	○	○	○	○	○	○	m ³			<u>モルタル練り</u>		—		○						m ³			養生工の種類	適用内容	養生無し	-	一般養生	一般的なコンクリート構造物の養生に適用する。	特殊養生 (練炭養生)	寒中コンクリートの養生に適用する。 養生の為の足場は別途算出する。	特殊養生 (ジェットヒータ養生)	<p>3章 コンクリート工</p> <p>3.1 コンクリート工</p> <p>1 適用 【省略】</p> <p>2 数量計算項目 コンクリート、<u>均しコンクリート</u>の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、構造物種別、施工条件、コンクリート規格、設計日打設量、養生工の種類、圧送管延長距離区分、現場内小運搬の有無、打設高さ、水平距離とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>構造物種別</th> <th>打設工法</th> <th>コンクリート規格</th> <th>設計日打設量</th> <th>養生工の種類</th> <th>圧送管延長距離区分</th> <th>現場内小運搬の有無</th> <th>打設高さ、水平距離</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><u>均しコンクリート</u></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td><u>参考として施工厚さ(cm)及び体積を算出する。</u></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 構造物種別 <u>区分</u> 構造物種別ごとに各部ごとの数量を算出し集計する。</p> <p>(3) 施工条件区分 コンクリート日打設量、打設地上高さ及び水平打設距離で区分する。</p> <p>(4) コンクリート規格区分 使用するコンクリートの材料及び規格で区分する。</p> <p><u>(5) 養生工の種類区分</u> 養生工の種類による区分は、次表による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>養生工の種類</th> <th>適用内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>養生無し</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>一般養生</td> <td>一般的なコンクリート構造物の養生に適用する。</td> </tr> <tr> <td>特殊養生 (練炭養生)</td> <td rowspan="2">寒中コンクリートの養生に適用する。 養生の為の足場は別途算出する。</td> </tr> <tr> <td>特殊養生 (ジェットヒータ養生)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 練炭とジェットヒータ養生の使い分けは原則として下記とする。 ただし、現地状況、構造物規模等によりこれにより難い場合は別途考慮する。 ① 鉄筋構造物の場合はジェットヒータによる養生を原則とする。 ② 上記以外は練炭による養生とする。</p>	項目	区分	構造物種別	打設工法	コンクリート規格	設計日打設量	養生工の種類	圧送管延長距離区分	現場内小運搬の有無	打設高さ、水平距離	単位	数量	備考	コンクリート		○	○	○	○	○	○	○	○	m ³			<u>均しコンクリート</u>		○		○						m ³		<u>参考として施工厚さ(cm)及び体積を算出する。</u>	養生工の種類	適用内容	養生無し	-	一般養生	一般的なコンクリート構造物の養生に適用する。	特殊養生 (練炭養生)	寒中コンクリートの養生に適用する。 養生の為の足場は別途算出する。	特殊養生 (ジェットヒータ養生)	<p>字句の改正</p> <p>表内、字句の削除及び改正</p> <p>字句の削除</p> <p>字句の追加</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>番号の改正</p>
項目	区分	構造物種別	打設工法	コンクリート規格	設計日打設量	養生工の種類	圧送管延長距離区分	現場内小運搬の有無	打設高さ、水平距離	単位	数量	備考																																																																																						
コンクリート		○	○	○	○	○	○	○	○	m ³																																																																																								
<u>モルタル練り</u>		—		○						m ³																																																																																								
養生工の種類	適用内容																																																																																																	
養生無し	-																																																																																																	
一般養生	一般的なコンクリート構造物の養生に適用する。																																																																																																	
特殊養生 (練炭養生)	寒中コンクリートの養生に適用する。 養生の為の足場は別途算出する。																																																																																																	
特殊養生 (ジェットヒータ養生)																																																																																																		
項目	区分	構造物種別	打設工法	コンクリート規格	設計日打設量	養生工の種類	圧送管延長距離区分	現場内小運搬の有無	打設高さ、水平距離	単位	数量	備考																																																																																						
コンクリート		○	○	○	○	○	○	○	○	m ³																																																																																								
<u>均しコンクリート</u>		○		○						m ³		<u>参考として施工厚さ(cm)及び体積を算出する。</u>																																																																																						
養生工の種類	適用内容																																																																																																	
養生無し	-																																																																																																	
一般養生	一般的なコンクリート構造物の養生に適用する。																																																																																																	
特殊養生 (練炭養生)	寒中コンクリートの養生に適用する。 養生の為の足場は別途算出する。																																																																																																	
特殊養生 (ジェットヒータ養生)																																																																																																		

新 旧 対 照 表

改 正				現 行				備 考																																																						
6 生コンクリート標準配合表				6 生コンクリート標準配合表																																																										
生コンクリート標準配合表(2)				生コンクリート標準配合表(2)																																																										
記号	設計基準強度 N/mm ²	スランブ cm	空気量 %	最大水セメント比 %	粗骨材最大寸法 mm	最小単位セメント量 kg/m ³	適用する構造物の代表例	備考																																																						
RC-2-1S (b)、(c)	24	12.0	5.5	45	40	300	海上及び飛沫帯の(橋台、橋脚、擁壁、井筒、カルバート、トンネル巻出し坑門工等)鉄筋構造物																																																							
RC-2-1S (a)	24	12.0	4.5	50	40	280	同上																																																							
【省略】																																																														
注) 1. 前ページと同じ 2. 前ページと同じ ※2 T-1Pについては、アーチ部はスランブ 15cm、インバート部はスランブ 8cm を標準とする。																																																														
【省略】																																																														
表内、字句及び数値の削除																																																														
字句の削除																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>設計基準強度 N/mm²</th> <th>スランブ cm</th> <th>空気量 %</th> <th>最大水セメント比 %</th> <th>粗骨材最大寸法 mm</th> <th>最小単位セメント量 kg/m³</th> <th>適用する構造物の代表例</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>RC-2-1S (b)、(c)</td> <td>24</td> <td>12.0</td> <td>5.5</td> <td>45</td> <td>40</td> <td>300</td> <td>海上及び飛沫帯の(橋台、橋脚、擁壁、井筒、カルバート、トンネル巻出し坑門工等)鉄筋構造物</td> <td></td> </tr> <tr> <td>RC-2-1S (a)</td> <td>24</td> <td>12.0</td> <td>4.5</td> <td>50</td> <td>40</td> <td>280</td> <td>同上</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="9">【省略】</td> </tr> <tr> <td colspan="9">注) 1. 前ページと同じ 2. 前ページと同じ ※2 T-1Pについては、アーチ部はスランブ 15cm、インバート部はスランブ 8cm を標準とする。 ※3 TRC-1Pについては、坑口部や巻出部のアーチ部で、一般型枠を使用の場合はスランブ 8cm、スライディングセントル等を使用の場合はスランブ 15cm を標準とする。</td> </tr> <tr> <td colspan="9">【省略】</td> </tr> </tbody> </table>									記号	設計基準強度 N/mm ²	スランブ cm	空気量 %	最大水セメント比 %	粗骨材最大寸法 mm	最小単位セメント量 kg/m ³	適用する構造物の代表例	備考	RC-2-1S (b)、(c)	24	12.0	5.5	45	40	300	海上及び飛沫帯の(橋台、橋脚、擁壁、井筒、カルバート、トンネル巻出し坑門工等)鉄筋構造物		RC-2-1S (a)	24	12.0	4.5	50	40	280	同上		【省略】									注) 1. 前ページと同じ 2. 前ページと同じ ※2 T-1Pについては、アーチ部はスランブ 15cm、インバート部はスランブ 8cm を標準とする。 ※3 TRC-1Pについては、坑口部や巻出部のアーチ部で、一般型枠を使用の場合はスランブ 8cm、スライディングセントル等を使用の場合はスランブ 15cm を標準とする。									【省略】								
記号	設計基準強度 N/mm ²	スランブ cm	空気量 %	最大水セメント比 %	粗骨材最大寸法 mm	最小単位セメント量 kg/m ³	適用する構造物の代表例	備考																																																						
RC-2-1S (b)、(c)	24	12.0	5.5	45	40	300	海上及び飛沫帯の(橋台、橋脚、擁壁、井筒、カルバート、トンネル巻出し坑門工等)鉄筋構造物																																																							
RC-2-1S (a)	24	12.0	4.5	50	40	280	同上																																																							
【省略】																																																														
注) 1. 前ページと同じ 2. 前ページと同じ ※2 T-1Pについては、アーチ部はスランブ 15cm、インバート部はスランブ 8cm を標準とする。 ※3 TRC-1Pについては、坑口部や巻出部のアーチ部で、一般型枠を使用の場合はスランブ 8cm、スライディングセントル等を使用の場合はスランブ 15cm を標準とする。																																																														
【省略】																																																														

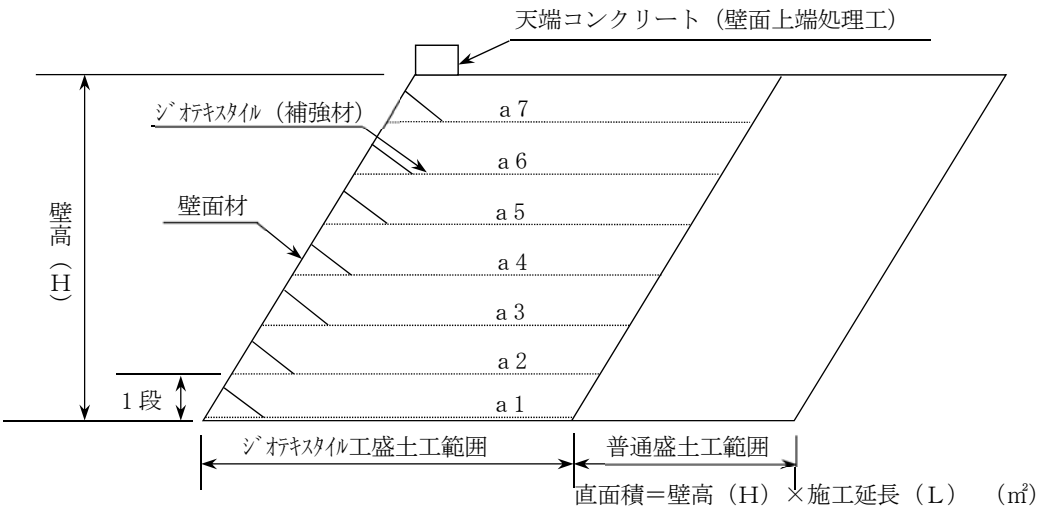
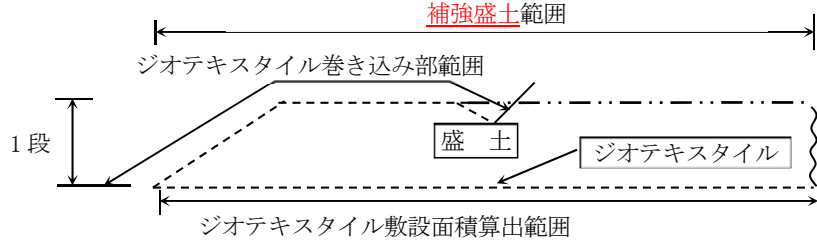
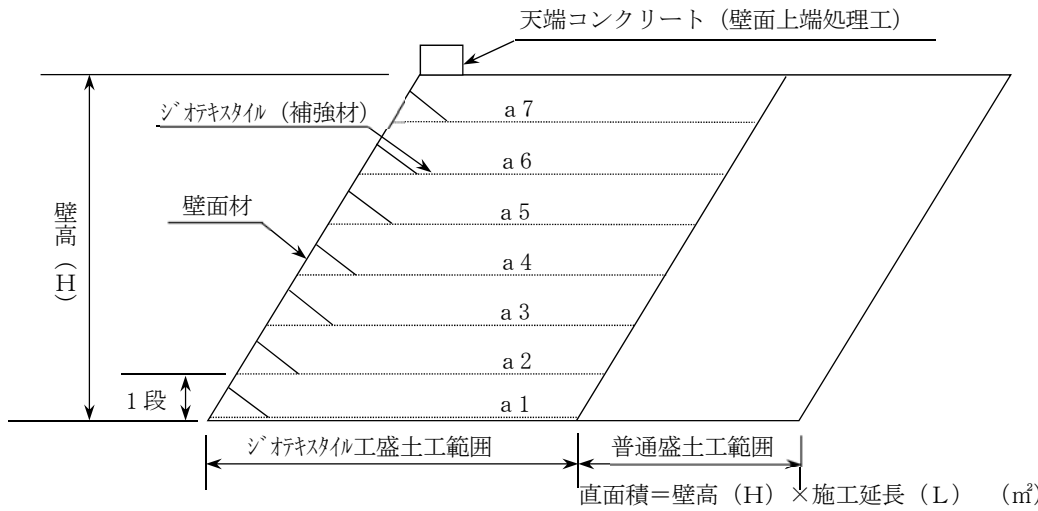
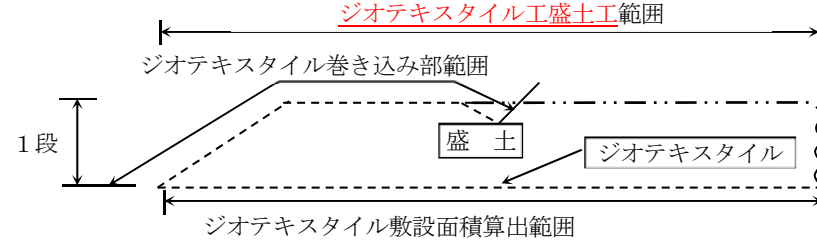
新 旧 対 照 表

改 正	現 行	備 考
<p>参考図、各工種の標準壁面計上</p>  <p>帯鋼補強土壁 正面図</p> <p>アンカー補強土壁 正面図</p> <p>ジオテキスタイル補強土壁 (二重壁タイプ) 正面図</p> <p>(注1) 参考図に示したのは、各工種の標準壁面形状である (注2) 本施工パッケージは、壁面最上段部（ハーフ）、最下段部（ハーフ）、コーナー部等の異形壁面材にかかわらず適用できる。</p> <p>2 数量算出項目 補強土壁壁面材組立・設置、補強土壁壁面材（材料費）、補強材取付、補強材（材料費）、まき出し・敷均し、締固め、<u>砕石投入</u>の数量を区分ごとに算出する。</p>	<p>参考図、各工種の標準壁面形状</p>  <p>帯鋼補強土壁 正面図</p> <p>アンカー補強土壁 正面図</p> <p><u>〔追加〕</u></p> <p>(注1) 参考図に示したのは、各工種の標準壁面形状である (注2) 本施工パッケージは、壁面最上段部（ハーフ）、最下段部（ハーフ）、コーナー部等の異形壁面材にかかわらず適用できる。</p> <p>2 数量算出項目 補強土壁壁面材組立・設置、補強土壁壁面材（材料費）、補強材取付、補強材（材料費）、まき出し・敷均し、締固め _____ の数量を区分ごとに算出する。</p>	<p>参考図の追加</p> <p>字句の追加</p>

改 正	現 行	備 考
<p>5 参考図（標準断面図）</p>  <p>帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁工 標準断面図</p> <p>ジオテキスタイル補強土壁工 標準断面図(二重壁タイプ)</p> <p>注) 補強土壁工盛土工範囲以外の盛土については、「2章 土工」により算出するものとする。</p>	<p>5 参考図（標準断面図）</p>  <p>補強土壁工標準断面図</p> <p>注) 補強土壁工盛土工範囲以外の盛土については、「2章 土工」により算出するものとする。</p>	<p>参考図の改正</p>

新 旧 対 照 表

改 正	現 行	備 考																																																																																																																				
<p>4 数量算出方法 数量算出は、「1章 基本事項」によるほか、次の方法によるものとする。 (1) ジオテキスタイル壁面材組立・設置の施工量は、直面積（壁高×施工延長）とする。（5.参考図（標準断面図）を参照） (2) ジオテキスタイル壁面材（材料費）は規格ごとに壁面材面積当りの鋼製<u>枠タイプ</u>の個数（個/m²）を算出する。（5.参考図（標準断面図）を参照） なお、施工方法別の数量算出項目及び壁面材の標準使用量は以下のとおりである。</p> <p>1) 施工方法別の数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用 (工法)</th> <th>ジオテキスタイル壁面材組立・設置</th> <th>ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し、締固め</th> <th>標準図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼製<u>枠タイプ</u>工法</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>5.参考図 (1) 図A</td> </tr> <tr> <td>巻込み工法（壁面材なし）</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>5.参考図 (1) 図B</td> </tr> <tr> <td>普通敷設工法（壁面材なし）</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>5.参考図 (1) 図C</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 鋼製<u>枠タイプ</u>標準使用量 (直面積 100 m²当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>壁面材種類</th> <th>タイプ</th> <th>1層当り施工高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>標準図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">鋼製<u>枠タイプ</u></td> <td>タイプA</td> <td>500mm 以下</td> <td rowspan="4">個</td> <td>100</td> <td rowspan="4">5.参考図 (1) 図A</td> </tr> <tr> <td>タイプB</td> <td>600mm 以下</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>タイプC</td> <td>600mm 以下</td> <td>167</td> </tr> <tr> <td>タイプD</td> <td>600mm 以下</td> <td>139</td> </tr> </tbody> </table> <p>(直面積 1 m²当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>壁面材種類</th> <th>タイプ</th> <th>1層当り施工高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>標準図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">鋼製<u>枠タイプ</u></td> <td>タイプA</td> <td>500mm 以下</td> <td rowspan="4">個</td> <td>1.00</td> <td rowspan="4">5.参考図 (1) 図A</td> </tr> <tr> <td>タイプB</td> <td>600mm 以下</td> <td>0.83</td> </tr> <tr> <td>タイプC</td> <td>600mm 以下</td> <td>1.67</td> </tr> <tr> <td>タイプD</td> <td>600mm 以下</td> <td>1.39</td> </tr> </tbody> </table>	適用 (工法)	ジオテキスタイル壁面材組立・設置	ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し、締固め	標準図	鋼製 <u>枠タイプ</u> 工法	○	○	5.参考図 (1) 図A	巻込み工法（壁面材なし）	×	○	5.参考図 (1) 図B	普通敷設工法（壁面材なし）	×	○	5.参考図 (1) 図C	壁面材種類	タイプ	1層当り施工高	単位	数量	標準図	鋼製 <u>枠タイプ</u>	タイプA	500mm 以下	個	100	5.参考図 (1) 図A	タイプB	600mm 以下	83	タイプC	600mm 以下	167	タイプD	600mm 以下	139	壁面材種類	タイプ	1層当り施工高	単位	数量	標準図	鋼製 <u>枠タイプ</u>	タイプA	500mm 以下	個	1.00	5.参考図 (1) 図A	タイプB	600mm 以下	0.83	タイプC	600mm 以下	1.67	タイプD	600mm 以下	1.39	<p>4 数量算出方法 数量算出は、「1章 基本事項」によるほか、次の方法によるものとする。 (1) ジオテキスタイル壁面材組立・設置の施工量は、直面積（壁高×施工延長）とする。（5.参考図（標準断面図）を参照） (2) ジオテキスタイル壁面材（材料費）は規格ごとに壁面材面積当りの鋼製<u>ユニット</u>の個数（個/m²）を算出する。（5.参考図（標準断面図）を参照） なお、施工方法別の数量算出項目及び壁面材の標準使用量は以下のとおりである。</p> <p>1) 施工方法別の数量算出項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用 (工法)</th> <th>ジオテキスタイル壁面材組立・設置</th> <th>ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し、締固め</th> <th>標準図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼製<u>ユニット</u>工法</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>5.参考図 (1) 図A</td> </tr> <tr> <td>巻込み工法（壁面材なし）</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>5.参考図 (1) 図B</td> </tr> <tr> <td>普通敷設工法（壁面材なし）</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>5.参考図 (1) 図C</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 鋼製<u>ユニット</u>標準使用量 (直面積 100 m²当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>壁面材種類</th> <th>タイプ</th> <th>1層当り施工高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>標準図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">鋼製<u>ユニット</u></td> <td>タイプA</td> <td>500mm 以下</td> <td rowspan="4">個</td> <td>100</td> <td rowspan="4">5.参考図 (1) 図A</td> </tr> <tr> <td>タイプB</td> <td>600mm 以下</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>タイプC</td> <td>600mm 以下</td> <td>167</td> </tr> <tr> <td>タイプD</td> <td>600mm 以下</td> <td>139</td> </tr> </tbody> </table> <p>(直面積 1 m²当り)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>壁面材種類</th> <th>タイプ</th> <th>1層当り施工高</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>標準図</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">鋼製<u>ユニット</u></td> <td>タイプA</td> <td>500mm 以下</td> <td rowspan="4">個</td> <td>1.00</td> <td rowspan="4">5.参考図 (1) 図A</td> </tr> <tr> <td>タイプB</td> <td>600mm 以下</td> <td>0.83</td> </tr> <tr> <td>タイプC</td> <td>600mm 以下</td> <td>1.67</td> </tr> <tr> <td>タイプD</td> <td>600mm 以下</td> <td>1.39</td> </tr> </tbody> </table>	適用 (工法)	ジオテキスタイル壁面材組立・設置	ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し、締固め	標準図	鋼製 <u>ユニット</u> 工法	○	○	5.参考図 (1) 図A	巻込み工法（壁面材なし）	×	○	5.参考図 (1) 図B	普通敷設工法（壁面材なし）	×	○	5.参考図 (1) 図C	壁面材種類	タイプ	1層当り施工高	単位	数量	標準図	鋼製 <u>ユニット</u>	タイプA	500mm 以下	個	100	5.参考図 (1) 図A	タイプB	600mm 以下	83	タイプC	600mm 以下	167	タイプD	600mm 以下	139	壁面材種類	タイプ	1層当り施工高	単位	数量	標準図	鋼製 <u>ユニット</u>	タイプA	500mm 以下	個	1.00	5.参考図 (1) 図A	タイプB	600mm 以下	0.83	タイプC	600mm 以下	1.67	タイプD	600mm 以下	1.39	<p>字句の改正</p> <p>表内、字句の改正</p> <p>字句の改正</p> <p>表内、字句の改正</p> <p>表内、字句の改正</p>
適用 (工法)	ジオテキスタイル壁面材組立・設置	ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し、締固め	標準図																																																																																																																			
鋼製 <u>枠タイプ</u> 工法	○	○	5.参考図 (1) 図A																																																																																																																			
巻込み工法（壁面材なし）	×	○	5.参考図 (1) 図B																																																																																																																			
普通敷設工法（壁面材なし）	×	○	5.参考図 (1) 図C																																																																																																																			
壁面材種類	タイプ	1層当り施工高	単位	数量	標準図																																																																																																																	
鋼製 <u>枠タイプ</u>	タイプA	500mm 以下	個	100	5.参考図 (1) 図A																																																																																																																	
	タイプB	600mm 以下		83																																																																																																																		
	タイプC	600mm 以下		167																																																																																																																		
	タイプD	600mm 以下		139																																																																																																																		
壁面材種類	タイプ	1層当り施工高	単位	数量	標準図																																																																																																																	
鋼製 <u>枠タイプ</u>	タイプA	500mm 以下	個	1.00	5.参考図 (1) 図A																																																																																																																	
	タイプB	600mm 以下		0.83																																																																																																																		
	タイプC	600mm 以下		1.67																																																																																																																		
	タイプD	600mm 以下		1.39																																																																																																																		
適用 (工法)	ジオテキスタイル壁面材組立・設置	ジオテキスタイル敷設・まき出し・敷均し、締固め	標準図																																																																																																																			
鋼製 <u>ユニット</u> 工法	○	○	5.参考図 (1) 図A																																																																																																																			
巻込み工法（壁面材なし）	×	○	5.参考図 (1) 図B																																																																																																																			
普通敷設工法（壁面材なし）	×	○	5.参考図 (1) 図C																																																																																																																			
壁面材種類	タイプ	1層当り施工高	単位	数量	標準図																																																																																																																	
鋼製 <u>ユニット</u>	タイプA	500mm 以下	個	100	5.参考図 (1) 図A																																																																																																																	
	タイプB	600mm 以下		83																																																																																																																		
	タイプC	600mm 以下		167																																																																																																																		
	タイプD	600mm 以下		139																																																																																																																		
壁面材種類	タイプ	1層当り施工高	単位	数量	標準図																																																																																																																	
鋼製 <u>ユニット</u>	タイプA	500mm 以下	個	1.00	5.参考図 (1) 図A																																																																																																																	
	タイプB	600mm 以下		0.83																																																																																																																		
	タイプC	600mm 以下		1.67																																																																																																																		
	タイプD	600mm 以下		1.39																																																																																																																		

改 正	現 行	備 考
<p>(3) ジオテキスタイル敷設の施工量は、ジオテキスタイル敷設面積を計上し、算出については下図及び次式のとおりとする。</p>  <p>注) 1. ジオテキスタイル敷設面積 = $a_1 + a_2 + a_3 + \dots$ (㎡) a_1, a_2, a_3, \dots ……補強盛土 1 段当たり敷設面積 (㎡) 2. ジオテキスタイル 1 段当たり敷設面積は、補強盛土範囲における、1 段当たりの底面積を算出するものとする。また、壁面補強材の面積も含み、巻き込み部の面積は含まないものとする。</p>  <p>(4) 補強盛土範囲以外の普通盛土工については、「2 章 土 工」により算出するものとする。</p> <p>(5) ジオテキスタイル (材料費) は、巻き込み部、重ね合わせ等を含んだジオテキスタイル必要面積 (㎡) を規格ごとに算出する。</p> <p>(6) 盛土材において、1 層当りの施工高を規格に記載する。</p> <p>(7) コンクリートブロック積が必要な場合は別途考慮する。</p> <p>(8) 補強盛土範囲の盛土材については、必要に応じて別途計上する。(5. 参考図 (1) 参照)</p>	<p>(3) ジオテキスタイル敷設の施工量は、ジオテキスタイル敷設面積を計上し、算出については下図及び次式のとおりとする。</p>  <p>注) 1. ジオテキスタイル敷設面積 = $a_1 + a_2 + a_3 + \dots$ (㎡) a_1, a_2, a_3, \dots ……ジオテキスタイル工 1 段当たり敷設面積 (㎡) 2. ジオテキスタイル 1 段当たり敷設面積は、ジオテキスタイル工盛土工範囲における、1 段当たりの底面積を算出するものとする。また、壁面補強材の面積も含み、巻き込み部の面積は含まないものとする。</p>  <p>(4) ジオテキスタイル工盛土工範囲以外の普通盛土工については、「2 章 土 工」により算出するものとする。</p> <p>(5) ジオテキスタイル (材料費) は、巻き込み部、重ね合わせ等を含んだジオテキスタイル必要面積 (㎡) を規格ごとに算出する。</p> <p>(6) 盛土材において、1 層当りの施工高を規格に記載する。</p> <p>(7) コンクリートブロック積が必要な場合は別途考慮する。</p> <p>(8) ジオテキスタイル工盛土工範囲の盛土材については、必要に応じて別途計上する。(5. 参考図 (1) 参照)</p>	<p>字句の改正 // 字句の改正 字句の改正 字句の改正</p>

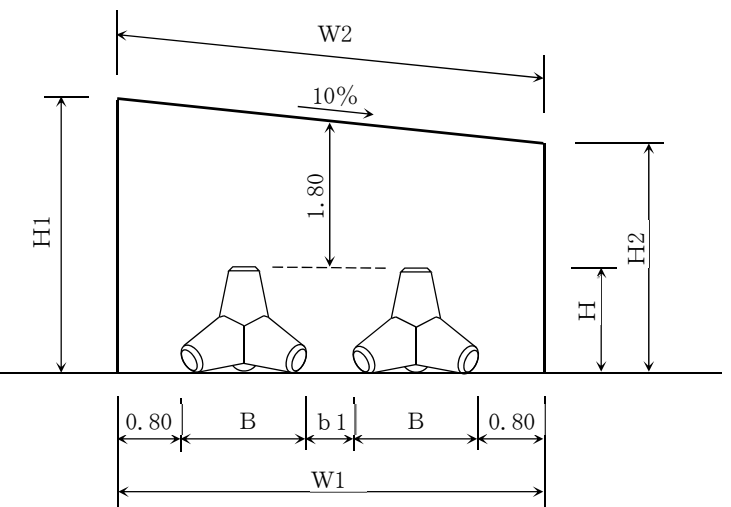
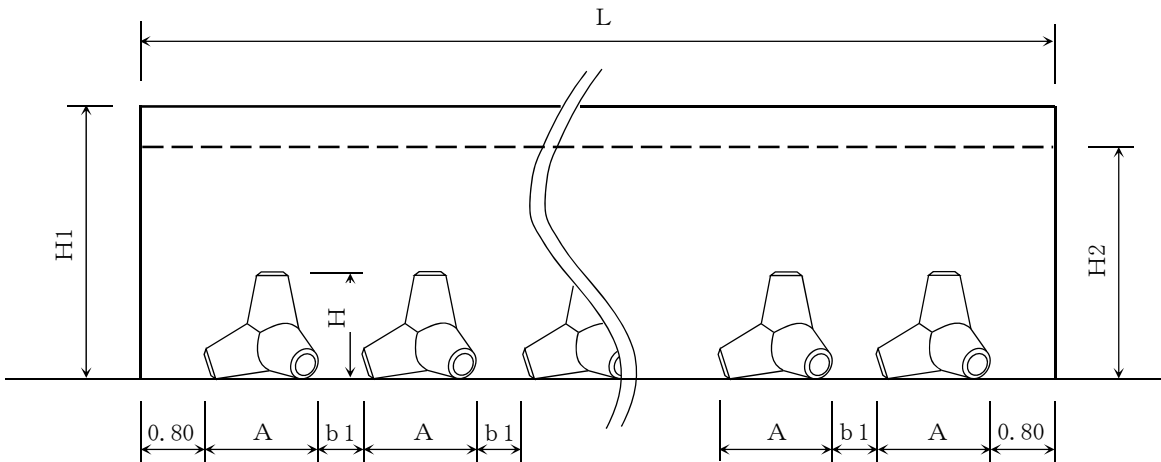
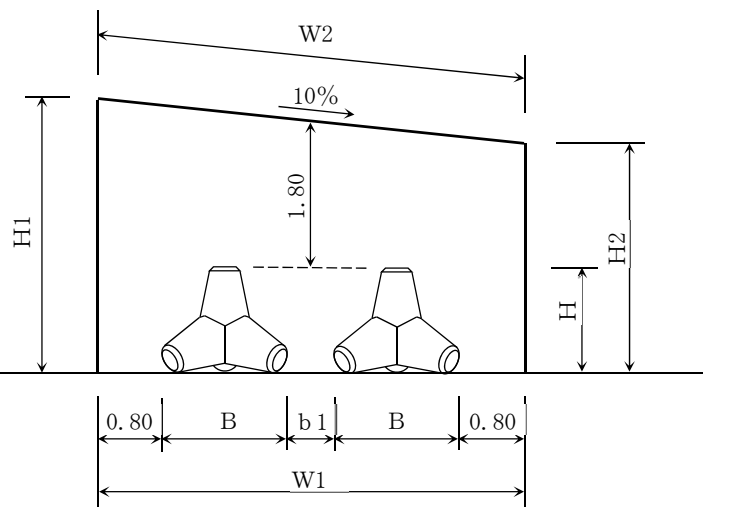
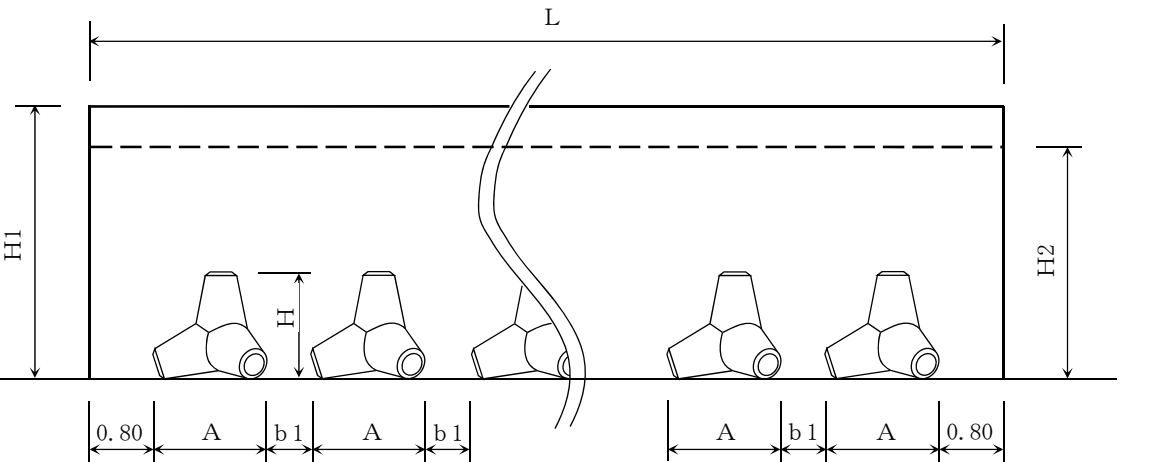
改 正	現 行	備 考
<p>5.4 場所打擁壁工</p> <p>5.4.1 場所打擁壁工 (1)</p> <p>1 適用 擁壁工の施工に適用する。 【省略】</p> <p>4 数量算出方法 擁壁本体コンクリート数量に含めないものについては、コンクリート数量を本体と区分して計上する。 ・擁壁本体コンクリート打設後に打設する付属物（擁壁天端に施工する壁高欄等）については、別途コンクリート、型枠、目地材等必要数量を算出する。</p> <p>[参考図] 擁壁本体コンクリート数量の範囲</p> <p>【省略】</p>	<p>5.4 場所打擁壁工</p> <p>5.4.1 場所打擁壁工 (1)</p> <p>1 適用 擁壁工の施工に適用する。 【省略】</p> <p>4 数量算出方法 擁壁本体コンクリート数量に含めないものについては、コンクリート数量を本体と区分して計上する。 ・擁壁本体コンクリート打設後に打設する付属物（擁壁天端に施工する壁高欄等）については、別途コンクリート、型枠、目地材等必要数量を算出する。</p> <p>[参考図] 擁壁本体コンクリート数量の範囲</p> <p>【省略】</p>	<p>字句の追加</p>

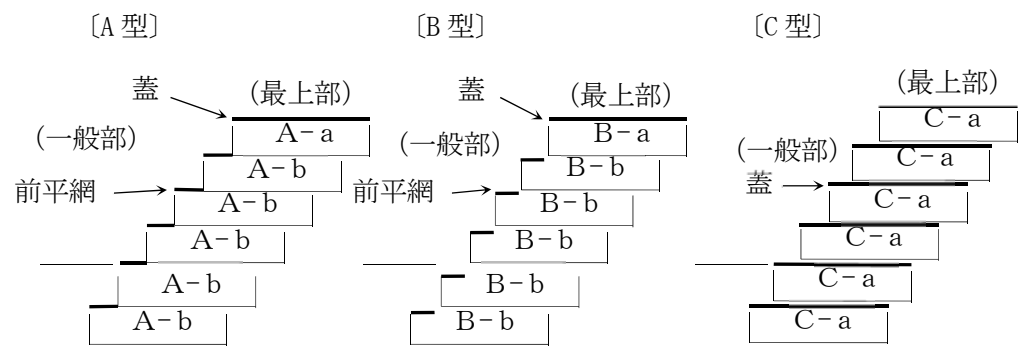
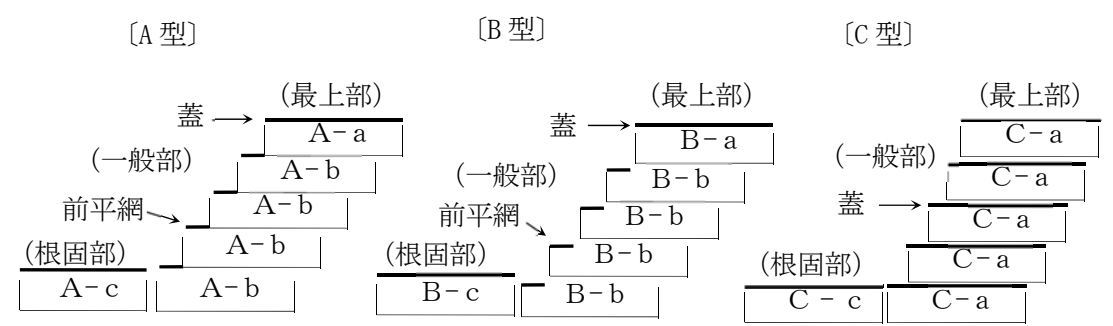
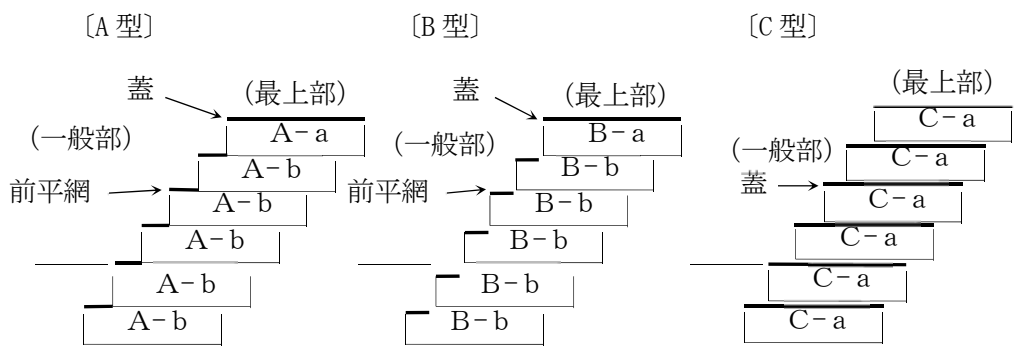
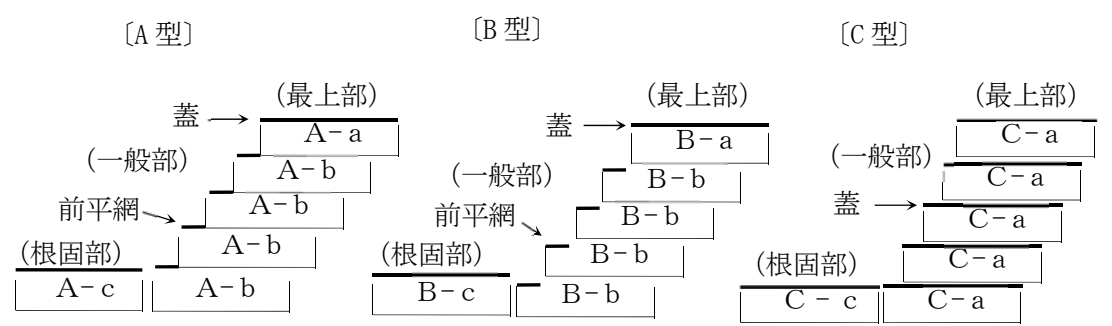
改 正	現 行	備 考																																										
<p>7章 基礎工</p> <p>7.1 基礎・裏込砕石工</p> <p>1 適用 無筋構造物、鉄筋構造物、小型構造物の基礎・裏込砕石工に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 基礎材の面積及び裏込材の体積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、<u> </u>材料規格、寸法とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目 \ 区分</th> <th style="text-align: center;"><u> </u></th> <th style="text-align: center;">材料規格</th> <th style="text-align: center;">寸法</th> <th style="text-align: center;">単位</th> <th style="text-align: center;">数 量</th> <th style="text-align: center;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">基礎材</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">施工厚 t = m</td> <td style="text-align: center;">m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">裏込材</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 基礎砕石の敷均し厚は 30 cm を上限とする。</p> <p>【省略】</p>	項目 \ 区分	<u> </u>	材料規格	寸法	単位	数 量	備 考	基礎材	—	○	施工厚 t = m	m ²			裏込材	—	○		m ³			<p>7章 基礎工</p> <p>7.1 基礎・裏込砕石工</p> <p>1 適用 無筋構造物、鉄筋構造物、小型構造物の基礎・裏込砕石工に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 基礎材の面積及び裏込材の体積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、<u>構造物</u>、材料規格、寸法とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目 \ 区分</th> <th style="text-align: center;"><u>構造物</u></th> <th style="text-align: center;">材料規格</th> <th style="text-align: center;">寸法</th> <th style="text-align: center;">単位</th> <th style="text-align: center;">数 量</th> <th style="text-align: center;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">基礎材</td> <td style="text-align: center;"><u>○</u></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">施工厚 t = m</td> <td style="text-align: center;">m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">裏込材</td> <td style="text-align: center;"><u>○</u></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 基礎砕石の敷均し厚は 30 cm を上限とする。</p> <p>【省略】</p>	項目 \ 区分	<u>構造物</u>	材料規格	寸法	単位	数 量	備 考	基礎材	<u>○</u>	○	施工厚 t = m	m ²			裏込材	<u>○</u>	○		m ³			<p>字句の削除</p> <p>表内、字句の削除</p>
項目 \ 区分	<u> </u>	材料規格	寸法	単位	数 量	備 考																																						
基礎材	—	○	施工厚 t = m	m ²																																								
裏込材	—	○		m ³																																								
項目 \ 区分	<u>構造物</u>	材料規格	寸法	単位	数 量	備 考																																						
基礎材	<u>○</u>	○	施工厚 t = m	m ²																																								
裏込材	<u>○</u>	○		m ³																																								

改 正		現 行					備 考
8章 構造物取壊し工							字句の追加 表内、字句の追加
8.1 構造物取壊し工							
1 適用 土木工事におけるコンクリート構造物等の取壊し工に適用する。 ただし、建築物および舗装版の取壊し工及びブロック施工による旧橋撤去には適用しない。							
2 数量算出項目 コンクリート構造物等の取壊しの数量を区分ごとに算出する。							
3 区分 区分は、種別、形状、 <u>集積積込の有無</u> とする。							
(1) 数量算出項目及び区分一覧表							
区分項目	種別	形状	<u>集積積込の有無</u>	単位	数量	備考	
コンクリート構造物取壊し	無筋構造物	—	＝	m ³		注)4,5,6	
	鉄筋構造物	—	＝	m ³		注)4,5,6	
石積取壊し	練	控 35 cm～45 cm	＝	(m ³) m ²	()		
		控 45 cm未満	＝	(m ³) m ²	()		
	空	控 45 cm～60 cm	＝	(m ³) m ²	()		
		控 60 cm～90 cm	＝	(m ³) m ²	()		
コンクリートはつり	コンクリート構造物	厚さ 3 cm以下	＝	(m ³) m ²	()		
		厚さ 3 cmを超え 6 cm以下	＝	(m ³) m ²	()		
管類切断	コンクリート管類	—	＝	m			
吹付法面取壊し	モルタル	厚さ 5 cm越え 15cm 以下	○	(m ³) m ²	()	法面高さ 5mを超えるもの 5m以下のもの で区分し数量を算出する。	
注) 1. 形状の範囲外の場合も区分して算出する。 2. Co 塊等を工事区間外へ搬出する場合は、運搬距離についても算出する。 3. 取壊し数量 (m ³) については、取壊す前の数量とする。 4. PC・RC 橋上部、鋼橋床版の取壊しは、コンクリート構造物取壊しの鉄筋構造物を適用する。 5. コンクリート構造物取壊しにおいて、施工基面 (機械設置基面) より上下 5m を超える場合については、区分して算出する。 6. 乾燥収縮によるひび割れ対策の鉄筋程度を含むものは無筋構造物とする。							
【省略】							
8章 構造物取壊し工							
8.1 構造物取壊し工							
1 適用 土木工事におけるコンクリート構造物等の取壊し工に適用する。 ただし、建築物および舗装版の取壊し工及びブロック施工による旧橋撤去には適用しない。							
2 数量算出項目 コンクリート構造物等の取壊しの数量を区分ごとに算出する。							
3 区分 区分は、種別、形状_____とする。							
(1) 数量算出項目及び区分一覧表							
区分項目	種別	形状	_____	単位	数量	備考	
コンクリート構造物取壊し	無筋構造物	—	—	m ³		注)4,5,6	
	鉄筋構造物	—	—	m ³		注)4,5,6	
石積取壊し	練	控 35 cm～45 cm	—	(m ³) m ²	()		
		控 45 cm未満	—	(m ³) m ²	()		
	空	控 45 cm～60 cm	—	(m ³) m ²	()		
		控 60 cm～90 cm	—	(m ³) m ²	()		
コンクリートはつり	コンクリート構造物	厚さ 3 cm以下	—	(m ³) m ²	()		
		厚さ 3 cmを超え 6 cm以下	—	(m ³) m ²	()		
管類切断	コンクリート管類	—	—	m			
吹付法面取壊し	モルタル	厚さ 5 cm越え 15cm 以下	—	(m ³) m ²	()	法面高さ 5mを超えるもの 5m以下のもの で区分し数量を算出する。	
注) 1. 形状の範囲外の場合も区分して算出する。 2. Co 塊等を工事区間外へ搬出する場合は、運搬距離についても算出する。 3. 取壊し数量 (m ³) については、取壊す前の数量とする。 4. PC・RC 橋上部、鋼橋床版の取壊しは、コンクリート構造物取壊しの鉄筋構造物を適用する。 5. コンクリート構造物取壊しにおいて、施工基面 (機械設置基面) より上下 5m を超える場合については、区分して算出する。 6. 乾燥収縮によるひび割れ対策の鉄筋程度を含むものは無筋構造物とする。							
【省略】							

改 正	現 行																																																	
<p>9.7 仮囲い設置撤去工</p> <p>9.7.1 仮囲い設置撤去工 【省略】</p> <p>9.7.2 防寒囲い工</p> <p>1 適用 【省略】</p> <p>3 区分 区分は、防寒囲いの構造形式とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">項目</th> <th style="width:10%;">区分</th> <th style="width:10%;">構造形式</th> <th style="width:10%;">単位</th> <th style="width:10%;">数 量</th> <th style="width:10%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防寒囲い</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <p>(3) 防寒囲いタイプの選定</p> <p>注) $H_1 = h + 1.8 - (B_1 \div 2) \times 10\%$ (m) 若しくは、$H_1 = h_1 + 1.8 - (b + 0.5 + 1.2) \times 10\%$ (m) b : 構造物幅 (奥行き) h : 構造物高さ h₁ : 谷側での構造物高さ B₁ : 仮囲い幅 (奥行き) H₁ : 谷側での仮囲いの高さ</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">囲枠部材</th> <th style="text-align: center;">屋根梁・屋根受け梁部等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Pタイプ</td> <td>パイプサポート+シート</td> <td>単管パイプ・既製ビーム・I形鋼・H形鋼等</td> </tr> <tr> <td>Wタイプ</td> <td><u>手摺先行専用型</u> 枠組足場+シート</td> <td>単管パイプ・既製ビーム・I形鋼・H形鋼等</td> </tr> <tr> <td>PWタイプ</td> <td><u>手摺先行専用型</u> 枠組足場+パイプサポート+シート</td> <td>単管パイプ・既製ビーム・H形鋼等</td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p>	項目	区分	構造形式	単位	数 量	備 考	防寒囲い	○		m ²				囲枠部材	屋根梁・屋根受け梁部等	Pタイプ	パイプサポート+シート	単管パイプ・既製ビーム・I形鋼・H形鋼等	Wタイプ	<u>手摺先行専用型</u> 枠組足場+シート	単管パイプ・既製ビーム・I形鋼・H形鋼等	PWタイプ	<u>手摺先行専用型</u> 枠組足場+パイプサポート+シート	単管パイプ・既製ビーム・H形鋼等	<p>9.7 仮囲い設置撤去工</p> <p>9.7.1 仮囲い設置撤去工 【省略】</p> <p>9.7.2 防寒囲い工</p> <p>1 適用 【省略】</p> <p>3 区分 区分は、防寒囲いの構造形式とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">項目</th> <th style="width:10%;">区分</th> <th style="width:10%;">構造形式</th> <th style="width:10%;">単位</th> <th style="width:10%;">数 量</th> <th style="width:10%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防寒囲い</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <p>(3) 防寒囲いタイプの選定</p> <p>注) $H_1 = h + 1.8 - (B_1 \div 2) \times 10\%$ (m) 若しくは、$H_1 = h_1 + 1.8 - (b + 0.5 + 1.2) \times 10\%$ (m) b : 構造物幅 (奥行き) h : 構造物高さ h₁ : 谷側での構造物高さ B₁ : 仮囲い幅 (奥行き) H₁ : 谷側での仮囲いの高さ</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">囲枠部材</th> <th style="text-align: center;">屋根梁・屋根受け梁部等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Pタイプ</td> <td>パイプサポート+シート</td> <td>単管パイプ・既製ビーム・I形鋼・H形鋼等</td> </tr> <tr> <td>Wタイプ</td> <td><u>手摺り</u> 枠組足場+シート</td> <td>単管パイプ・既製ビーム・I形鋼・H形鋼等</td> </tr> <tr> <td>PWタイプ</td> <td><u>手摺り</u> 枠組足場+パイプサポート+シート</td> <td>単管パイプ・既製ビーム・H形鋼等</td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p>	項目	区分	構造形式	単位	数 量	備 考	防寒囲い	○		m ²				囲枠部材	屋根梁・屋根受け梁部等	Pタイプ	パイプサポート+シート	単管パイプ・既製ビーム・I形鋼・H形鋼等	Wタイプ	<u>手摺り</u> 枠組足場+シート	単管パイプ・既製ビーム・I形鋼・H形鋼等	PWタイプ	<u>手摺り</u> 枠組足場+パイプサポート+シート	単管パイプ・既製ビーム・H形鋼等	<p>備考</p> <p style="margin-top: 200px;">表内、字句の追加及び改正</p>
項目	区分	構造形式	単位	数 量	備 考																																													
防寒囲い	○		m ²																																															
	囲枠部材	屋根梁・屋根受け梁部等																																																
Pタイプ	パイプサポート+シート	単管パイプ・既製ビーム・I形鋼・H形鋼等																																																
Wタイプ	<u>手摺先行専用型</u> 枠組足場+シート	単管パイプ・既製ビーム・I形鋼・H形鋼等																																																
PWタイプ	<u>手摺先行専用型</u> 枠組足場+パイプサポート+シート	単管パイプ・既製ビーム・H形鋼等																																																
項目	区分	構造形式	単位	数 量	備 考																																													
防寒囲い	○		m ²																																															
	囲枠部材	屋根梁・屋根受け梁部等																																																
Pタイプ	パイプサポート+シート	単管パイプ・既製ビーム・I形鋼・H形鋼等																																																
Wタイプ	<u>手摺り</u> 枠組足場+シート	単管パイプ・既製ビーム・I形鋼・H形鋼等																																																
PWタイプ	<u>手摺り</u> 枠組足場+パイプサポート+シート	単管パイプ・既製ビーム・H形鋼等																																																

改 正	現 行	備 考
<p>9.7.3 防寒囲い数量算出例</p> <p>1 橋脚 【省略】</p> <p>8 異形ブロック 異形ブロック (H>1.6) Wタイプ 正面図</p> <p>側面図</p> <p>記号凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> A : ブロック打設時縦幅 (カタログより) B : ブロック打設時横幅 (カタログより) H : ブロック打設時高さ (カタログより) b1 : 余裕幅 (下表より) <p>◎囲い面積</p> <p>Wタイプ (枠組足場部)</p> $S1 = \{ (L - 1.2) \times 2 + (W1 - 1.2) \times 2 \} \times H$ <p>Wタイプ (枠組足場部以外)</p> $S2 = (H1 + H2 - H \times 2 + W2) \times L + W1 \times (H1 + H2 - H \times 2) + W2 \times L \times (\text{打設回数} - 1)$ <p><u>囲い面積は型枠借用数分とする。屋根部分の掛け外しを打設回数分計上することを標準とするが、過年度実績や現場条件等によりこれによりがたい場合は、別途考慮する。</u></p> <p>【省略】</p>	<p>9.7.3 防寒囲い数量算出例</p> <p>1 橋脚 【省略】</p> <p>8 異形ブロック 異形ブロック (H>1.6) Wタイプ 正面図</p> <p>側面図</p> <p>記号凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> A : ブロック打設時縦幅 (カタログより) B : ブロック打設時横幅 (カタログより) H : ブロック打設時高さ (カタログより) b1 : 余裕幅 (下表より) <p>◎囲い面積</p> <p>Wタイプ (枠組足場部)</p> $S1 = \{ (L - 1.2) \times 2 + (W1 - 1.2) \times 2 \} \times H$ <p>Wタイプ (枠組足場部以外)</p> $S2 = (H1 + H2 - H \times 2 + W2) \times L + W1 \times (H1 + H2 - H \times 2) + W2 \times L \times (\text{打設回数} - 1)$ <p>【省略】</p>	<p>字句の追加 ”</p>

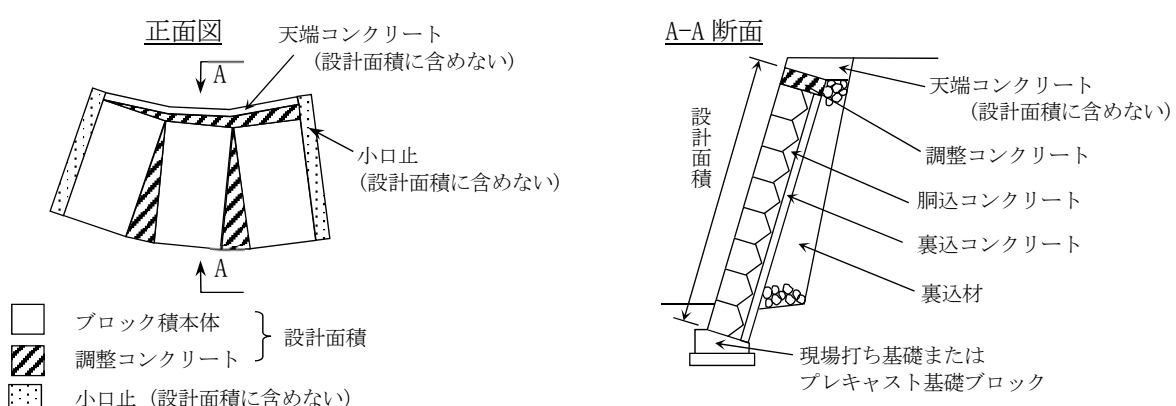
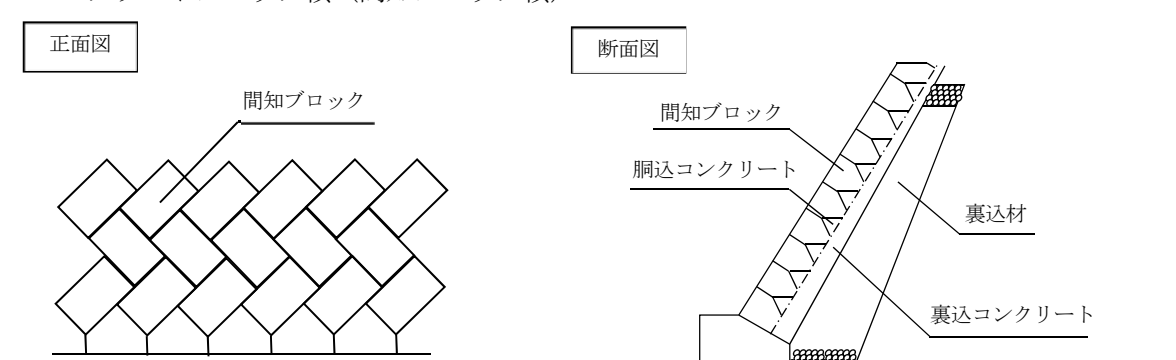
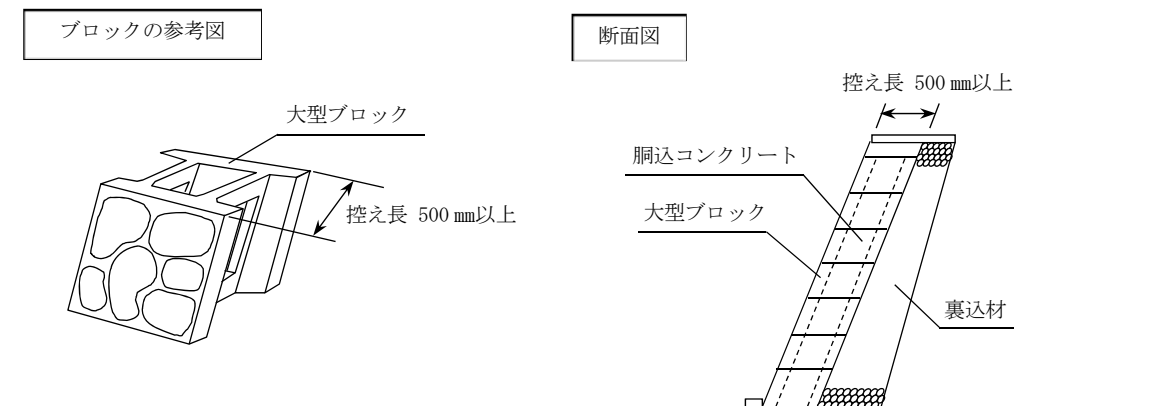
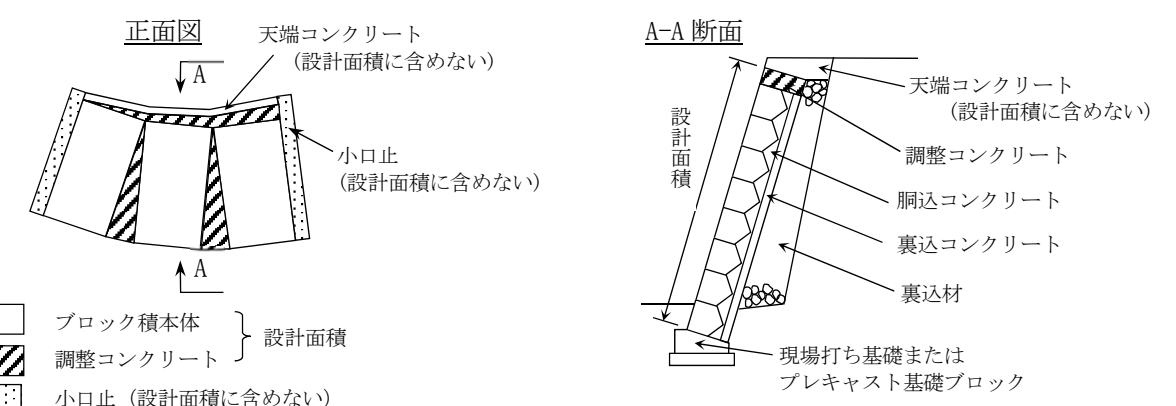
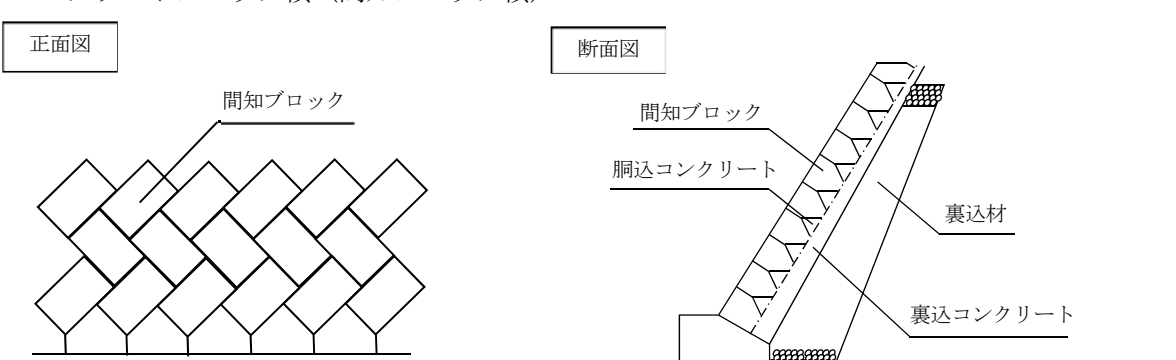
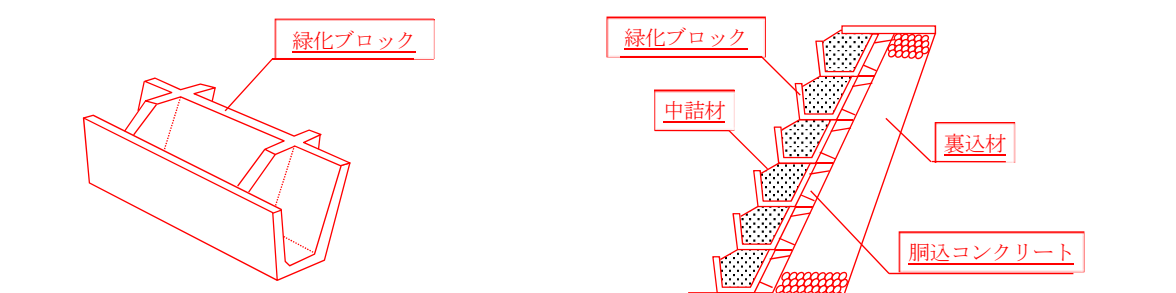
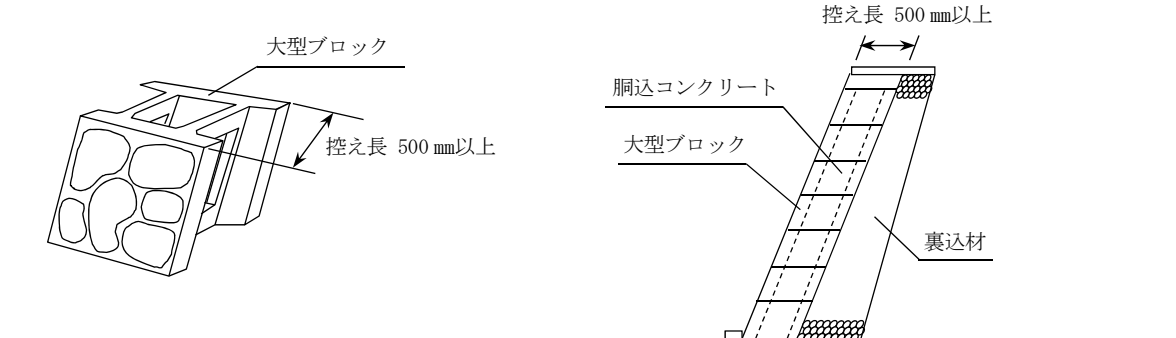
改 正	現 行	備 考
<p>異形ブロック (H≦1.6) Pタイプ</p> <p>正面図</p>  <p>側面図</p>  <p>記号凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> A : ブロック打設時縦幅 (カタログより) B : ブロック打設時横幅 (カタログより) H : ブロック打設時高さ (カタログより) b1 : 余裕幅 (下表より) <p>◎囲い面積 Pタイプ</p> $S = (H1+H2+W2) \times L + W1 \times (H1+H2) + W2 \times L \times (\text{打設回数} - 1)$ <p><u>囲い面積は型枠借用数分とする。屋根部分の掛け外しを打設回数分計上することを標準とするが、過年度実績や現場条件等によりこれによりがたい場合は、別途考慮する。</u></p> <p>【省略】</p>	<p>異形ブロック (H≦1.6) Pタイプ</p> <p>正面図</p>  <p>側面図</p>  <p>記号凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> A : ブロック打設時縦幅 (カタログより) B : ブロック打設時横幅 (カタログより) H : ブロック打設時高さ (カタログより) b1 : 余裕幅 (下表より) <p>◎囲い面積 Pタイプ</p> $S = (H1+H2+W2) \times L + W1 \times (H1+H2)$ <p>_____</p> <p>_____</p> <p>【省略】</p>	<p>字句の追加 ”</p>

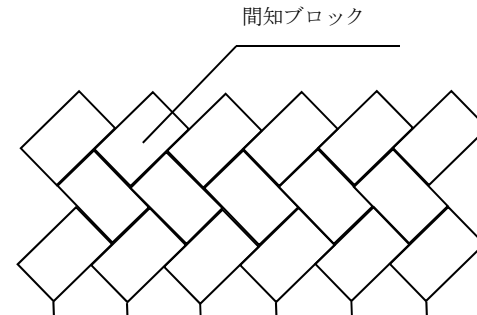
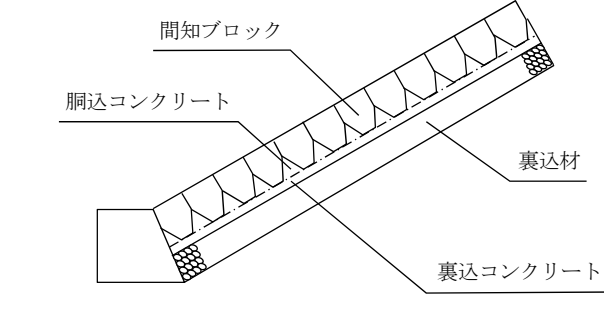
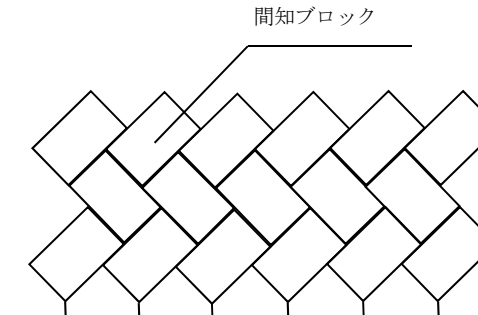
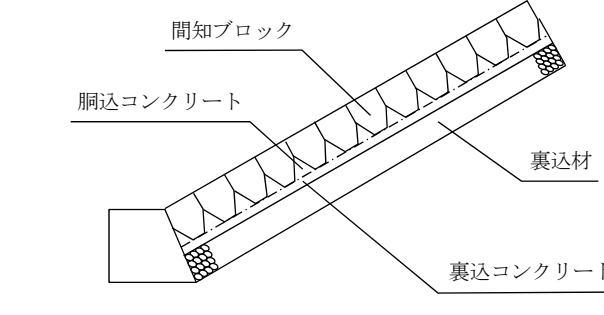
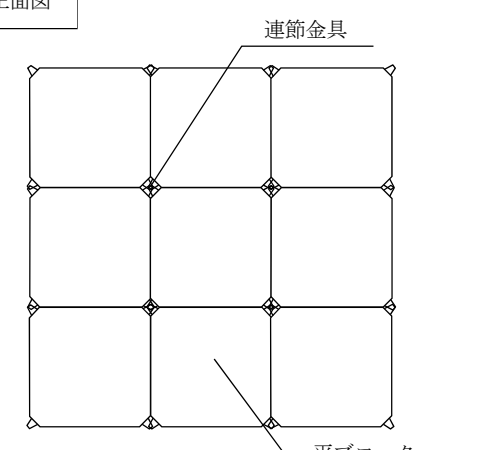
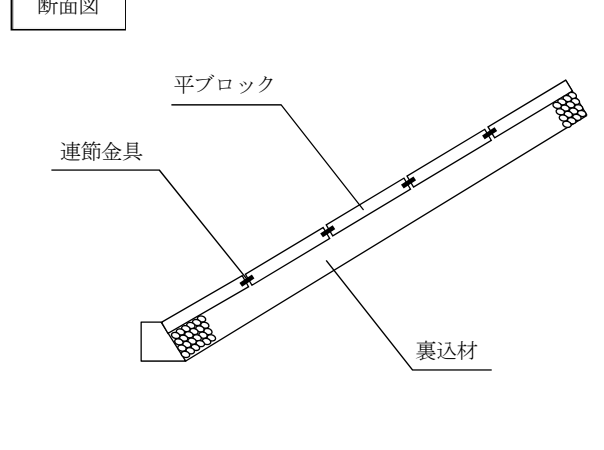
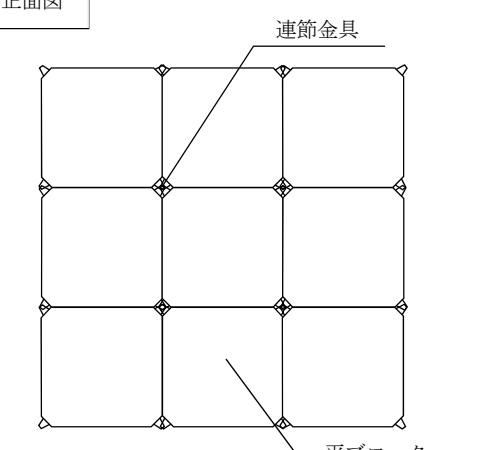
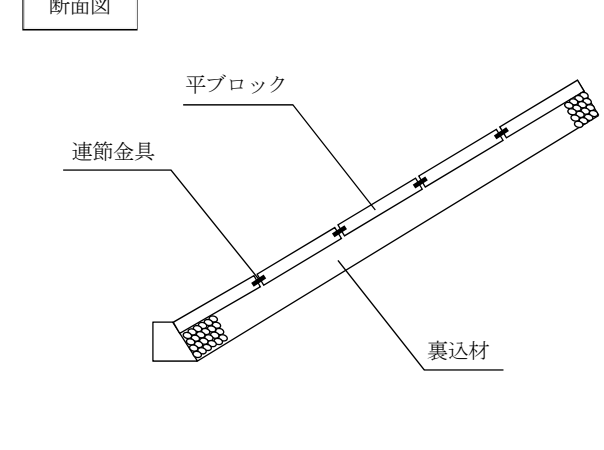
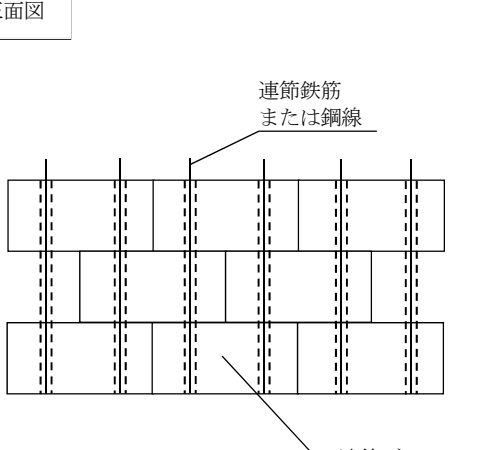
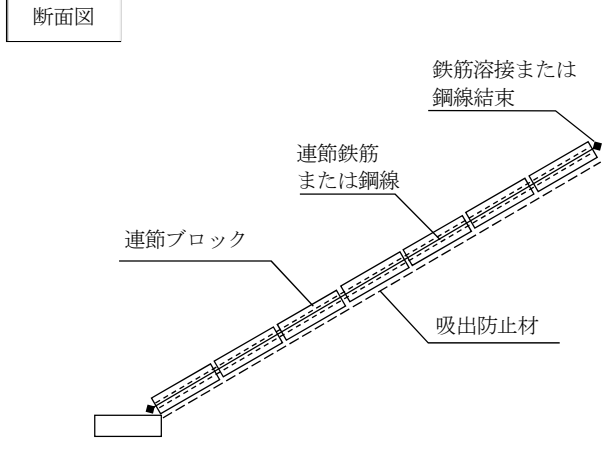
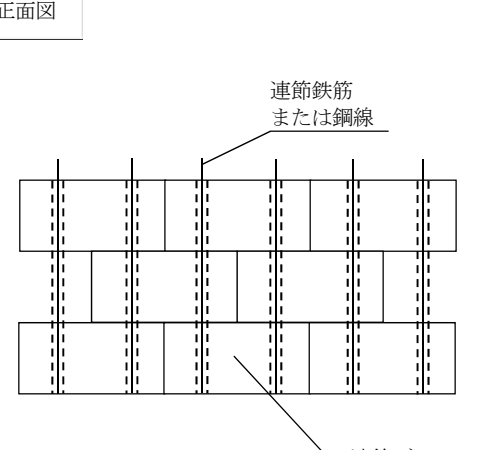
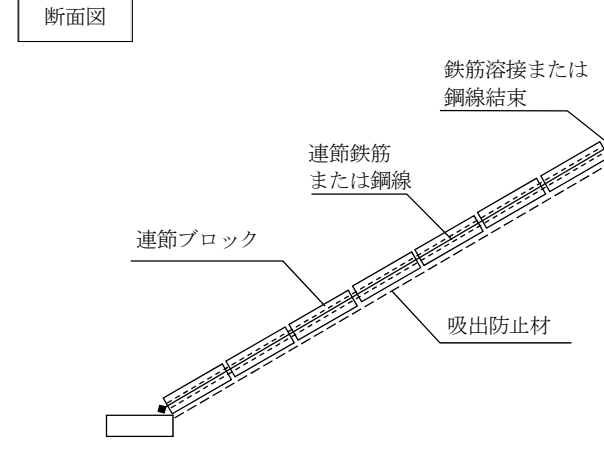
改 正	現 行	備 考
<p>10章 護岸根固め工</p> <p>10.1 かご工</p> <p>1 適用 【省略】</p> <p>5 参考図</p> <p>(1) じゃかご 【省略】</p> <p>(4) かごマット (多段積型)</p> <p>〔突込式〕</p>  <p>〔並列式〕</p>  <p>【省略】</p> <p>注) 1. 曲線半径 (R) は、上段かご先 (L) と中間かごの最下段かご先 (L') の中間とする。 2. 算出面積は直高 (H) の正面投影面積とし、直線部と曲線部に分けて計上する。 3. <u>並列式の場合は、突込式で算出した面積の外に並列部の直高 (h) の正面投影面積を加算する。</u></p> <p>直線部 (R ≥ 50m) : $A = \frac{(H+h)}{2} \times L$ 曲線部 (30m < R < 50m) : $A = \frac{(H+h)}{2} \times (L+L') / 2$</p> <p>【省略】</p>	<p>10章 護岸根固め工</p> <p>10.1 かご工</p> <p>1 適用 【省略】</p> <p>5 参考図</p> <p>(1) じゃかご 【省略】</p> <p>(4) かごマット (多段積型)</p> <p>〔突込式〕</p>  <p>〔並列式〕</p>  <p>【省略】</p> <p>注) 1. 曲線半径 (R) は、上段かご先 (L) と中間かごの最下段かご先 (L') の中間とする。 2. 算出面積は直高 (H) の正面投影面積とし、直線部と曲線部に分けて計上する。</p> <hr/> <p>直線部 (R ≥ 50m) : $A = \frac{H}{2} \times L$ 曲線部 (30m < R < 50m) : $A = \frac{H}{2} \times (L+L') / 2$</p> <p>【省略】</p>	<p>字句の追加 字句の改正 〃</p>

改 正	現 行	備 考																																																																																																														
<p>10.3 コンクリートブロック積（張）工</p> <p>1 適用 コンクリートブロック積工、コンクリートブロック張工_____に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 コンクリートブロック積、大型ブロック積、間知ブロック張、平ブロック張、連節ブロック張、_____ _____ 胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込（砕石）、遮水シート張、吸出し防止材（全面）設置、現場打基礎コンクリート、天端コンクリート、プレキャスト基礎ブロック、小口止、横帯コンクリート、巻止コンクリートの数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、規格、構造とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>① コンクリートブロック積</p> <p>【省略】</p> <p>_____</p> <p style="text-align: center;">[削除]</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>⑥ 胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込（砕石）、遮水シート張、吸出し防止材（全面）設置</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>ブロックの種類</th> <th>胴込・裏込材規格</th> <th>遮水シート規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胴込・裏込コンクリート</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込（砕石）</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>遮水シート張</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材（全面）設置</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。 2. コンクリートブロック積工における胴込コンクリートの標準使用量は、次表のとおりとする。これにより難しい場合は別途考慮する。</p> <p>【省略】</p>	項目	区分	生コンクリート規格	ブロックの種類	胴込・裏込材規格	遮水シート規格	単位	数量	備考	胴込・裏込コンクリート		○	○	×	×	m ³			胴込・裏込（砕石）		×	○	○	×	m ³			遮水シート張		×	×	×	○	m ²			吸出し防止材（全面）設置		×	×	×	×	m ²			<p>10.3 コンクリートブロック積（張）工</p> <p>1 適用 コンクリートブロック積工、コンクリートブロック張工及び緑化ブロック積工に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 コンクリートブロック積、大型ブロック積、間知ブロック張、平ブロック張、連節ブロック張、<u>緑化ブロック積</u>、<u>胴込・裏込コンクリート</u>、<u>胴込・裏込（砕石）</u>、<u>遮水シート張</u>、<u>吸出し防止材（全面）設置</u>、<u>現場打基礎コンクリート</u>、<u>天端コンクリート</u>、<u>プレキャスト基礎ブロック</u>、<u>小口止</u>、<u>横帯コンクリート</u>、<u>巻止コンクリート</u>の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、規格、構造とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <p>① コンクリートブロック積</p> <p>【省略】</p> <p>⑥ <u>緑化ブロック積</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>緑化ブロックの質量</th> <th>裏込材規格</th> <th>裏込材10㎡当り使用量</th> <th>胴込・裏込コンクリート規格</th> <th>胴込・裏込コンクリート10㎡当り使用量</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>緑化ブロック積</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. <u>緑化ブロック積工（勾配1割未満、ブロック質量980kg/個以下）の場合である。</u> 2. <u>設置面積は、調整コンクリートを含んだ面積とし、小口止、天端コンクリートは別途計上する。</u> 3. <u>施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。</u></p> <p>⑦ 胴込・裏込コンクリート、胴込・裏込（砕石）、遮水シート張、吸出し防止材（全面）設置</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>ブロックの種類</th> <th>胴込・裏込材規格</th> <th>_____</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胴込・裏込コンクリート</td> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>胴込・裏込（砕石）</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>遮水シート張</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吸出し防止材（全面）設置</td> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。 2. コンクリートブロック積工における胴込コンクリートの標準使用量は、次表のとおりとする。これにより難しい場合は別途考慮する。</p> <p>【省略】</p>	項目	区分	緑化ブロックの質量	裏込材規格	裏込材10㎡当り使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート10㎡当り使用量	単位	数量	備考	緑化ブロック積		○	○	○	○	○	m ²			項目	区分	生コンクリート規格	ブロックの種類	胴込・裏込材規格	_____	単位	数量	備考	胴込・裏込コンクリート		○	×	×	—	m ³			胴込・裏込（砕石）		×	○	○	—	m ³			遮水シート張		×	×	×	—	m ²			吸出し防止材（全面）設置		×	×	×	—	m ²			<p>字句の削除</p> <p>字句の削除</p> <p>字句の削除</p> <p>表の削除</p> <p>字句の削除</p> <p>字句の削除</p> <p>字句の削除</p> <p>番号の改正</p> <p>表内、字句の追加及び改正</p>
項目	区分	生コンクリート規格	ブロックの種類	胴込・裏込材規格	遮水シート規格	単位	数量	備考																																																																																																								
胴込・裏込コンクリート		○	○	×	×	m ³																																																																																																										
胴込・裏込（砕石）		×	○	○	×	m ³																																																																																																										
遮水シート張		×	×	×	○	m ²																																																																																																										
吸出し防止材（全面）設置		×	×	×	×	m ²																																																																																																										
項目	区分	緑化ブロックの質量	裏込材規格	裏込材10㎡当り使用量	胴込・裏込コンクリート規格	胴込・裏込コンクリート10㎡当り使用量	単位	数量	備考																																																																																																							
緑化ブロック積		○	○	○	○	○	m ²																																																																																																									
項目	区分	生コンクリート規格	ブロックの種類	胴込・裏込材規格	_____	単位	数量	備考																																																																																																								
胴込・裏込コンクリート		○	×	×	—	m ³																																																																																																										
胴込・裏込（砕石）		×	○	○	—	m ³																																																																																																										
遮水シート張		×	×	×	—	m ²																																																																																																										
吸出し防止材（全面）設置		×	×	×	—	m ²																																																																																																										

新 旧 対 照 表

改 正								現 行								備 考																																																																																																																
⑦ 現場打基礎コンクリート、プレキャスト基礎ブロック <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>プレキャスト基礎ブロック規格</th> <th>基礎碎石の有無</th> <th>養生工の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場打基礎コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャスト基礎ブロック</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャスト基礎ブロック(材料費)</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 現場打ち基礎コンクリートは、体積 (m³) も算出するとともに、底幅及び高さも示す。</p>								項目	区分	生コンクリート規格	プレキャスト基礎ブロック規格	基礎碎石の有無	養生工の種類	単位	数量	備考	現場打基礎コンクリート		○	×	○	○	m			プレキャスト基礎ブロック		×	○	×	×	m			プレキャスト基礎ブロック(材料費)		×	○	×	×	m			⑧ 現場打基礎コンクリート、プレキャスト基礎ブロック <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>プレキャスト基礎ブロック規格</th> <th>基礎碎石の有無</th> <th>養生工の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現場打基礎コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャスト基礎ブロック</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレキャスト基礎ブロック(材料費)</td> <td></td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 現場打ち基礎コンクリートは、体積 (m³) も算出するとともに、底幅及び高さも示す。</p>								項目	区分	生コンクリート規格	プレキャスト基礎ブロック規格	基礎碎石の有無	養生工の種類	単位	数量	備考	現場打基礎コンクリート		○	×	○	○	m			プレキャスト基礎ブロック		×	○	×	×	m			プレキャスト基礎ブロック(材料費)		×	○	×	×	m			番号の改正																																								
項目	区分	生コンクリート規格	プレキャスト基礎ブロック規格	基礎碎石の有無	養生工の種類	単位	数量	備考																																																																																																																								
現場打基礎コンクリート		○	×	○	○	m																																																																																																																										
プレキャスト基礎ブロック		×	○	×	×	m																																																																																																																										
プレキャスト基礎ブロック(材料費)		×	○	×	×	m																																																																																																																										
項目	区分	生コンクリート規格	プレキャスト基礎ブロック規格	基礎碎石の有無	養生工の種類	単位	数量	備考																																																																																																																								
現場打基礎コンクリート		○	×	○	○	m																																																																																																																										
プレキャスト基礎ブロック		×	○	×	×	m																																																																																																																										
プレキャスト基礎ブロック(材料費)		×	○	×	×	m																																																																																																																										
⑧ 天端コンクリート <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>コンクリート打設条件</th> <th>養生工の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天端コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								項目	区分	生コンクリート規格	コンクリート打設条件	養生工の種類	単位	数量	備考	天端コンクリート		○	○	○	m ³			⑨ 天端コンクリート <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>生コンクリート規格</th> <th>コンクリート打設条件</th> <th>養生工の種類</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天端コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								項目	区分	生コンクリート規格	コンクリート打設条件	養生工の種類	単位	数量	備考	天端コンクリート		○	○	○	m ³			番号の改正																																																																																
項目	区分	生コンクリート規格	コンクリート打設条件	養生工の種類	単位	数量	備考																																																																																																																									
天端コンクリート		○	○	○	m ³																																																																																																																											
項目	区分	生コンクリート規格	コンクリート打設条件	養生工の種類	単位	数量	備考																																																																																																																									
天端コンクリート		○	○	○	m ³																																																																																																																											
⑨ 小口止、横帯コンクリート、巻止コンクリート <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>構造</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小口止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>横帯コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巻止コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型 枠</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込材</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎碎石</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 必要に応じて数量を項目ごとに算出する。 2. 小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートについては、体積 (m³) も算出すること。</p>								項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考	小口止				m			横帯コンクリート				m			巻止コンクリート				m			型 枠		○	×	m ²			裏込材				m ³			目地材				m ²			基礎碎石				m ²			⑩ 小口止、横帯コンクリート、巻止コンクリート <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>構造</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小口止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>横帯コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>巻止コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型 枠</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏込材</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目地材</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎碎石</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 必要に応じて数量を項目ごとに算出する。 2. 小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートについては、体積 (m³) も算出すること。</p>								項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考	小口止				m			横帯コンクリート				m			巻止コンクリート				m			型 枠		○	×	m ²			裏込材				m ³			目地材				m ²			基礎碎石				m ²			番号の改正
項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考																																																																																																																										
小口止				m																																																																																																																												
横帯コンクリート				m																																																																																																																												
巻止コンクリート				m																																																																																																																												
型 枠		○	×	m ²																																																																																																																												
裏込材				m ³																																																																																																																												
目地材				m ²																																																																																																																												
基礎碎石				m ²																																																																																																																												
項目	区分	規格	構造	単位	数量	備考																																																																																																																										
小口止				m																																																																																																																												
横帯コンクリート				m																																																																																																																												
巻止コンクリート				m																																																																																																																												
型 枠		○	×	m ²																																																																																																																												
裏込材				m ³																																																																																																																												
目地材				m ²																																																																																																																												
基礎碎石				m ²																																																																																																																												
<p>(2) 規格区分 コンクリートブロック積、コンクリートブロック張 <u> </u> は、ブロックの種類、質量、形状及び大きさごとに区分して算出する。 基礎コンクリート、天端コンクリート、小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートは、形状及び寸法ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 構造区分 空積 (張) 及び練積 (張) に区分して算出する。</p>								<p>(2) 規格区分 コンクリートブロック積、コンクリートブロック張 <u>及び緑化ブロック積</u> は、ブロックの種類、質量、形状及び大きさごとに区分して算出する。 基礎コンクリート、天端コンクリート、小口止、横帯コンクリート及び巻止コンクリートは、形状及び寸法ごとに区分して算出する。</p> <p>(3) 構造区分 空積 (張) 及び練積 (張) に区分して算出する。</p>								字句の削除																																																																																																																

改 正	現 行	備 考
<p>4 参考図</p> <p>(1) 調整コンクリート・小口止・天端コンクリート</p>  <p>(2) 各種ブロック参考図</p> <p>① コンクリートブロック積 (間知ブロック積)</p>  <p>[削除]</p> <p>② 大型ブロック積</p> 	<p>4 参考図</p> <p>(1) 調整コンクリート・小口止・天端コンクリート</p>  <p>(2) 各種ブロック参考図</p> <p>① コンクリートブロック積 (間知ブロック積)</p>  <p>② 緑化ブロック積</p>  <p>③ 大型ブロック積</p> 	<p>字句の削除</p> <p>参考図の削除</p> <p>番号の改正</p>

改正	現行	備考
<p>③ 間知ブロック張</p> <p>正面図</p>  <p>間知ブロック</p> <p>断面図</p>  <p>間知ブロック</p> <p>胴込コンクリート</p> <p>裏込材</p> <p>裏込コンクリート</p>	<p>④ 間知ブロック張</p> <p>正面図</p>  <p>間知ブロック</p> <p>断面図</p>  <p>間知ブロック</p> <p>胴込コンクリート</p> <p>裏込材</p> <p>裏込コンクリート</p>	<p>番号の改正</p>
<p>④ 平ブロック張</p> <p>正面図</p>  <p>連節金具</p> <p>平ブロック</p> <p>断面図</p>  <p>連節金具</p> <p>平ブロック</p> <p>裏込材</p>	<p>⑤ 平ブロック張</p> <p>正面図</p>  <p>連節金具</p> <p>平ブロック</p> <p>断面図</p>  <p>連節金具</p> <p>平ブロック</p> <p>裏込材</p>	<p>番号の改正</p>
<p>⑤ 連節ブロック張</p> <p>正面図</p>  <p>連節鉄筋 または鋼線</p> <p>連節ブロック</p> <p>断面図</p>  <p>連節鉄筋 または鋼線</p> <p>連節鉄筋 または鋼線</p> <p>鉄筋溶接または 鋼線結束</p> <p>連節ブロック</p> <p>吸出防止材</p> <p>【省略】</p>	<p>⑥ 連節ブロック張</p> <p>正面図</p>  <p>連節鉄筋 または鋼線</p> <p>連節ブロック</p> <p>断面図</p>  <p>連節鉄筋 または鋼線</p> <p>連節鉄筋 または鋼線</p> <p>鉄筋溶接または 鋼線結束</p> <p>連節ブロック</p> <p>吸出防止材</p> <p>【省略】</p>	<p>番号の改正</p>

改 正	現 行	備 考																																																																																																																										
<p>14 章 道路附属施設工</p> <p>14.1 防護柵設置工</p> <p>【省略】</p> <p>14.3 標識工</p> <p>1 適用 道路標識の標識柱、標識板、標識基礎の設置工及び撤去工に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 標識柱、標識板、標識基礎の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、構造・種類、規格・仕様とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>構造・種類</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">標識柱</td> <td>路側式</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>片持式</td> <td>×</td> <td>×</td> <td rowspan="2">基</td> <td></td> <td>※1</td> </tr> <tr> <td>門型式</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>※1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">標識板</td> <td>案内標識</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>枚</td> <td></td> <td>※2</td> </tr> <tr> <td>案内標識以外</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">標識基礎</td> <td>路側式</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>片持式</td> <td>×</td> <td>×</td> <td rowspan="2">基</td> <td></td> <td>※3</td> </tr> <tr> <td>門型式</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>※3</td> </tr> <tr> <td>添架式標識板取付金具</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td>※4</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 備考欄に※1があるものは、標識柱の1基当り質量 (kg/基) も算出すること。 2. 備考欄に※2があるものは、標識板の1枚当り面積 (㎡/基) も算出すること。 3. 備考欄に※3があるものは、標識基礎の1基当り体積 (m³/基) も算出すること。 4. 添架式標識板取付金具の単位 (基) は、標識板枚数で算出すること。 <u>また、取付金具の段数を区分して算出すること。</u></p> <p>【省略】</p>	項目	区分	構造・種類	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	標識柱	路側式	○	○	基			片持式	×	×	基		※1	門型式	×	○	※1	標識板	案内標識	×	○	枚		※2	案内標識以外	○	×	枚			標識基礎	路側式	○	×	基			片持式	×	×	基		※3	門型式	×	×	※3	添架式標識板取付金具		○	×	基		※4	<p>14 章 道路附属施設工</p> <p>14.1 防護柵設置工</p> <p>【省略】</p> <p>14.3 標識工</p> <p>1 適用 道路標識の標識柱、標識板、標識基礎の設置工及び撤去工に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 標識柱、標識板、標識基礎の数量を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、構造・種類、規格・仕様とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>構造・種類</th> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">標識柱</td> <td>路側式</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>片持式</td> <td>×</td> <td>×</td> <td rowspan="2">基</td> <td></td> <td>※1</td> </tr> <tr> <td>門型式</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>※1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">標識板</td> <td>案内標識</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>枚</td> <td></td> <td>※2</td> </tr> <tr> <td>案内標識以外</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>枚</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">標識基礎</td> <td>路側式</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>片持式</td> <td>×</td> <td>×</td> <td rowspan="2">基</td> <td></td> <td>※3</td> </tr> <tr> <td>門型式</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>※3</td> </tr> <tr> <td>添架式標識板取付金具</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>基</td> <td></td> <td>※4</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 備考欄に※1があるものは、標識柱の1基当り質量 (kg/基) も算出すること。 2. 備考欄に※2があるものは、標識板の1枚当り面積 (㎡/基) も算出すること。 3. 備考欄に※3があるものは、標識基礎の1基当り体積 (m³/基) も算出すること。 4. 添架式標識板取付金具の単位 (基) は、標識板枚数で算出すること。 _____</p> <p>【省略】</p>	項目	区分	構造・種類	規格・仕様	単 位	数 量	備 考	標識柱	路側式	○	○	基			片持式	×	×	基		※1	門型式	×	○	※1	標識板	案内標識	×	○	枚		※2	案内標識以外	○	×	枚			標識基礎	路側式	○	×	基			片持式	×	×	基		※3	門型式	×	×	※3	添架式標識板取付金具		○	×	基		※4	<p>字句の追加</p>
項目	区分	構造・種類	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																																																																																																						
標識柱	路側式	○	○	基																																																																																																																								
	片持式	×	×	基		※1																																																																																																																						
	門型式	×	○		※1																																																																																																																							
標識板	案内標識	×	○	枚		※2																																																																																																																						
	案内標識以外	○	×	枚																																																																																																																								
標識基礎	路側式	○	×	基																																																																																																																								
	片持式	×	×	基		※3																																																																																																																						
	門型式	×	×		※3																																																																																																																							
添架式標識板取付金具		○	×	基		※4																																																																																																																						
項目	区分	構造・種類	規格・仕様	単 位	数 量	備 考																																																																																																																						
標識柱	路側式	○	○	基																																																																																																																								
	片持式	×	×	基		※1																																																																																																																						
	門型式	×	○		※1																																																																																																																							
標識板	案内標識	×	○	枚		※2																																																																																																																						
	案内標識以外	○	×	枚																																																																																																																								
標識基礎	路側式	○	×	基																																																																																																																								
	片持式	×	×	基		※3																																																																																																																						
	門型式	×	×		※3																																																																																																																							
添架式標識板取付金具		○	×	基		※4																																																																																																																						

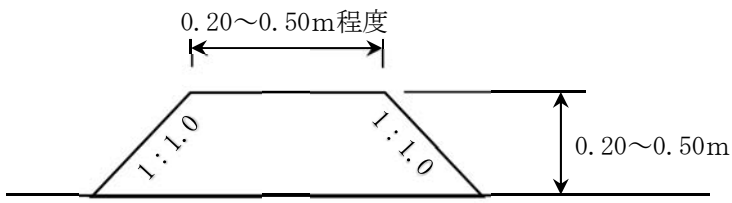
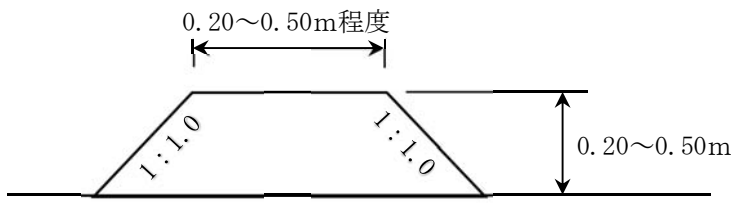
改 正		現 行		備 考																																																																																																																																																																
<p>15章 鋼橋上部工</p> <p>15.1 鋼 材</p> <p>15.1.1 橋梁本体</p> <p>1 適 用 鋼橋上部工の製作工の鋼材に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 鋼材質量を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区 分 区分は、構造名称ごとに構造形式、材種、材質、寸法とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th colspan="2" rowspan="2">構造名称</th> <th rowspan="2">構造 形式</th> <th colspan="3">規 格</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>材種</th> <th>材質</th> <th>寸法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">鋼材質量</td> <td>橋 体</td> <td>(連毎に区分)</td> <td>○</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="7">付属物</td> <td>支 承</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>個(kg)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高 欄</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg (m)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護柵</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg (m)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>伸縮継手</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg (m)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>検査路</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg (m)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>排水装置</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg (m)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐震連結装置</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg (m)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p>		区分 項目	構造名称		構造 形式	規 格			単 位	数 量	備 考	材種	材質	寸法	鋼材質量	橋 体	(連毎に区分)	○	○			kg			付属物	支 承	×	○			個(kg)			高 欄	×	○			kg (m)			防護柵	×	○			kg (m)			伸縮継手	×	○			kg (m)			検査路	×	○			kg (m)			排水装置	×	○			kg (m)			耐震連結装置	×	○			kg (m)			<p>15章 鋼橋上部工</p> <p>15.1 鋼 材</p> <p>15.1.1 橋梁本体</p> <p>1 適 用 鋼橋上部工の製作工の鋼材に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 鋼材質量を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区 分 区分は、構造名称ごとに構造形式、材種、材質、寸法とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分 項目</th> <th colspan="2" rowspan="2">構造名称</th> <th rowspan="2">構造 形式</th> <th colspan="3">規 格</th> <th rowspan="2">単 位</th> <th rowspan="2">数 量</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>材種</th> <th>材質</th> <th>寸法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">鋼材質量</td> <td>橋 体</td> <td>(連毎に区分)</td> <td>○</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="7">付属物</td> <td>支 承</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>個(kg)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高 欄</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg _____</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>防護柵</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg _____</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>伸縮継手</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg _____</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>検査路</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg _____</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>排水装置</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg _____</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐震連結装置</td> <td>×</td> <td colspan="3">○</td> <td>kg _____</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p>		区分 項目	構造名称		構造 形式	規 格			単 位	数 量	備 考	材種	材質	寸法	鋼材質量	橋 体	(連毎に区分)	○	○			kg			付属物	支 承	×	○			個(kg)			高 欄	×	○			kg _____			防護柵	×	○			kg _____			伸縮継手	×	○			kg _____			検査路	×	○			kg _____			排水装置	×	○			kg _____			耐震連結装置	×	○			kg _____			<p>表内、字句の追加</p>
区分 項目	構造名称					構造 形式	規 格					単 位	数 量	備 考																																																																																																																																																						
			材種	材質	寸法																																																																																																																																																															
鋼材質量	橋 体	(連毎に区分)	○	○			kg																																																																																																																																																													
	付属物	支 承	×	○			個(kg)																																																																																																																																																													
		高 欄	×	○			kg (m)																																																																																																																																																													
		防護柵	×	○			kg (m)																																																																																																																																																													
		伸縮継手	×	○			kg (m)																																																																																																																																																													
		検査路	×	○			kg (m)																																																																																																																																																													
		排水装置	×	○			kg (m)																																																																																																																																																													
		耐震連結装置	×	○			kg (m)																																																																																																																																																													
区分 項目	構造名称		構造 形式	規 格			単 位	数 量	備 考																																																																																																																																																											
				材種	材質	寸法																																																																																																																																																														
鋼材質量	橋 体	(連毎に区分)	○	○			kg																																																																																																																																																													
	付属物	支 承	×	○			個(kg)																																																																																																																																																													
		高 欄	×	○			kg _____																																																																																																																																																													
		防護柵	×	○			kg _____																																																																																																																																																													
		伸縮継手	×	○			kg _____																																																																																																																																																													
		検査路	×	○			kg _____																																																																																																																																																													
		排水装置	×	○			kg _____																																																																																																																																																													
		耐震連結装置	×	○			kg _____																																																																																																																																																													

新 旧 対 照 表

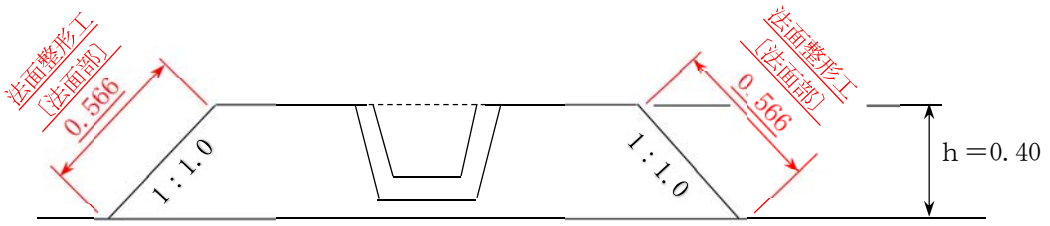
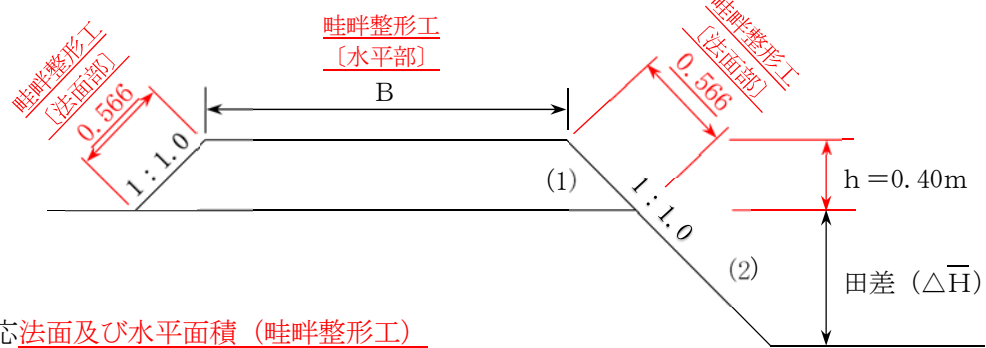
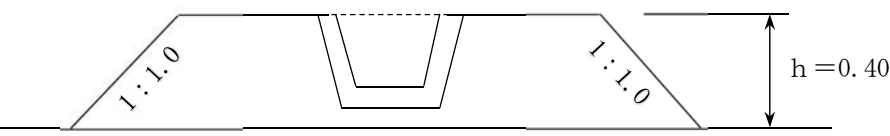
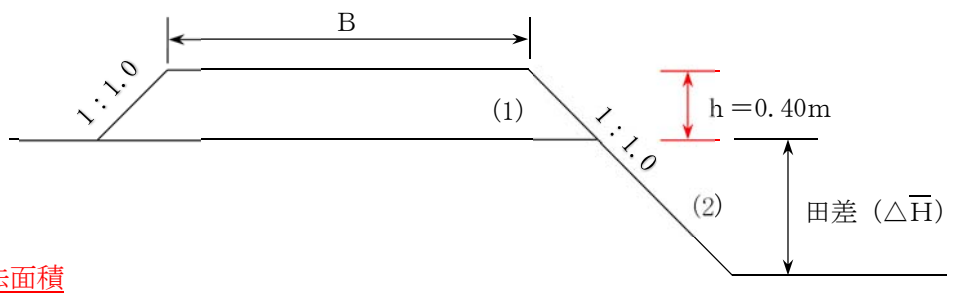
改 正	現 行	備 考
<p>15.4 鋼橋架設工</p> <p>1 適 用 鋼橋上部工の架設工に適用する。 【省略】</p> <p>4 数量算出方法 数量の算出は、「1章 基本事項」によるほか次の方法によるものとする。 (1) ベント設備質量 トラッククレーン等によるベント工法で使用されるベントのように、架設する部材毎に設置し橋体のみを支持するベントで比較的大きな反力とならない高さ 30m以内のベント質量は、下記により算出する。 ベント総質量 (T) は、次式による。 $T = \sum T_i$ $h < 10 \quad T_i = 0.372 \times (B + 1.5) + \{4.737 \times n + 0.372 \times (B + 1.5)\} \times h / 10$ $10 \leq h \leq 30 \quad T_i = 0.39 \times n \times h + 0.744 \times (B + 1.5) + 0.837 \times n$ ただし、T : ベント総質量 (つなぎ材、筋かい、梁等を含む) (t) T_i : 1 基当りのベント質量 (t) n : 1 列当りのベント柱本数 (本) h : ベント高さ (基礎天端から主桁下端まで) (m) B : 外桁～外桁間隔 (箱桁は外 Web～外 Web 間隔) (m) なお、T_i、h、Bとも小数第1位止 (2位四捨五入) とする。 【省略】</p>	<p>15.4 鋼橋架設工</p> <p>1 適 用 鋼橋上部工の架設工に適用する。 【省略】</p> <p>4 数量算出方法 数量の算出は、「1章 基本事項」によるほか次の方法によるものとする。 (1) ベント設備質量 トラッククレーン等によるベント工法で使用されるベントのように、架設する部材毎に設置し橋体のみを支持するベントで比較的大きな反力とならない高さ 30m以内のベント質量は、下記により算出する。 ベント総質量 (T) は、次式による。 $T = \sum T_i$ $h < 10 \quad T_i = 0.372 \times (B + 1.5) + \{4.097 \times n + 0.372 \times (B + 1.5)\} \times h / 10$ $10 \leq h \leq 30 \quad T_i = 0.326 \times n \times h + 0.744 \times (B + 1.5) + 0.837 \times n$ ただし、T : ベント総質量 (つなぎ材、筋かい、梁等を含む) (t) T_i : 1 基当りのベント質量 (t) n : 1 列当りのベント柱本数 (本) h : ベント高さ (基礎天端から主桁下端まで) (m) B : 外桁～外桁間隔 (箱桁は外 Web～外 Web 間隔) (m) なお、T_i、h、Bとも小数第1位止 (2位四捨五入) とする。 【省略】</p>	<p>数値の改正 ”</p>

改 正	現 行	備 考																																																																																																																														
<p>17章 橋台・橋脚工</p> <p>17.1 橋台・橋脚工</p> <p>17.1.1 橋台・橋脚工 (1)</p> <p>1 適用 橋台及び橋脚の施工に適用する。なお、以下の適用を外れる橋台・橋脚については、橋台・橋脚工 (2)」を適用する。</p> <p>(1) 適用できる範囲</p> <p>1) 構造物高さ 5 m以上 25m未満の T形橋脚 (円形及び小判型含む) の場合</p> <p>2) 構造物高さ 5 m以上 20m未満の 壁式橋脚 (小判型含む) の場合</p> <p>3) 構造物高さ 12m未満かつ翼壁厚 0.4m以上 0.6m以下の 逆 T式橋台の場合</p> <p><u>なお、橋台パラペットを後施工する場合、構造物高さに後施工分は含まない。</u></p> <p>【省略】</p> <p>3 区分 区分は、規格、形式とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>形式</th> <th>必要性の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>橋台・橋脚本体コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td>注)1 注)2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基礎 砕石</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>t</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>(×)</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>注)3</td> </tr> <tr> <td>水抜パイプ</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>逆 T式橋台のみ必要に応じ計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 橋台・橋脚本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。</p> <p>2. 橋台・橋脚本体コンクリートの形式は、逆 T式橋台、T型橋脚、壁式橋脚とし、各形式における打設量区分については、3 (2) を参照のこと。</p> <p>3. 防寒囲い等で足場が必要な場合及び特殊な足場を別途計上する必要がある場合は、必要の有無を「×」とし別途算出する。なお、一般的な施工をする場合は必要の有無を記載する必要はない。</p> <p><u>(2) 規格</u> <u>橋台・橋脚コンクリートの生コンクリート規格ごとに算出する。</u> <u>鉄筋工の鉄筋材料規格・径ごとに算出する。</u></p> <p><u>(3) 形式</u> <u>橋台・橋脚形式ごとに算出する。</u></p> <p>【省略】</p> <p><u>(4) 基礎材・均しコンクリート</u> <u>基礎材・均しコンクリートの有無を算出する。</u></p> <p>【省略】</p>	項目	区分	規格	形式	必要性の有無	単位	数量	備考	橋台・橋脚本体コンクリート		○	○	—	m ³	○	注)1 注)2	基礎 砕石		×	×	○	—	×			—	—	—	—	—		均しコンクリート		×	×	○	—	×		鉄筋		○	×	—	t	○		足場		×	×	(×)	—	×	注)3	水抜パイプ		×	×	—	—	○	逆 T式橋台のみ必要に応じ計上	<p>17章 橋台・橋脚工</p> <p>17.1 橋台・橋脚工</p> <p>17.1.1 橋台・橋脚工 (1)</p> <p>1 適用 橋台及び橋脚の施工に適用する。なお、以下の適用を外れる橋台・橋脚については、橋台・橋脚工 (2)」を適用する。</p> <p>(1) 適用できる範囲</p> <p>1) 構造物高さ 5 m以上 25m未満の T形橋脚 (円形及び小判型含む) の場合</p> <p>2) 構造物高さ 5 m以上 20m未満の 壁式橋脚 (小判型含む) の場合</p> <p>3) 構造物高さ 12m未満かつ翼壁厚 0.4m以上 0.6m以下の 逆 T式橋台の場合</p> <p>【省略】</p> <p>3 区分 区分は、規格、形式とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>規格</th> <th>形式</th> <th>必要性の有無</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>橋台・橋脚本体コンクリート</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>m³</td> <td>○</td> <td>注)1 注)2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">基礎 砕石</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>t</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>足場</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>(×)</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>注)3</td> </tr> <tr> <td>水抜パイプ</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>逆 T式橋台のみ必要に応じ計上</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 橋台・橋脚本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。</p> <p>2. 橋台・橋脚本体コンクリートの形式は、逆 T式橋台、T型橋脚、壁式橋脚とし、各形式における打設量区分については、3 (2) を参照のこと。</p> <p>3. 防寒囲い等で足場が必要な場合及び特殊な足場を別途計上する必要がある場合は、必要の有無を「×」とし別途算出する。なお、一般的な施工をする場合は必要の有無を記載する必要はない。</p> <p><u>(2) 形式別打設量区分</u></p> <p>【省略】</p> <p>【省略】</p>	項目	区分	規格	形式	必要性の有無	単位	数量	備考	橋台・橋脚本体コンクリート		○	○	—	m ³	○	注)1 注)2	基礎 砕石		×	×	○	—	×			—	—	—	—	—		均しコンクリート		×	×	○	—	×		鉄筋		○	×	—	t	○		足場		×	×	(×)	—	×	注)3	水抜パイプ		×	×	—	—	○	逆 T式橋台のみ必要に応じ計上	<p>字句の追加</p> <p>表内、字句の削除</p> <p>字句の追加</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>字句の改正</p> <p>字句の追加</p> <p>字句の追加</p> <p>”</p>
項目	区分	規格	形式	必要性の有無	単位	数量	備考																																																																																																																									
橋台・橋脚本体コンクリート		○	○	—	m ³	○	注)1 注)2																																																																																																																									
基礎 砕石		×	×	○	—	×																																																																																																																										
		—	—	—	—	—																																																																																																																										
均しコンクリート		×	×	○	—	×																																																																																																																										
鉄筋		○	×	—	t	○																																																																																																																										
足場		×	×	(×)	—	×	注)3																																																																																																																									
水抜パイプ		×	×	—	—	○	逆 T式橋台のみ必要に応じ計上																																																																																																																									
項目	区分	規格	形式	必要性の有無	単位	数量	備考																																																																																																																									
橋台・橋脚本体コンクリート		○	○	—	m ³	○	注)1 注)2																																																																																																																									
基礎 砕石		×	×	○	—	×																																																																																																																										
		—	—	—	—	—																																																																																																																										
均しコンクリート		×	×	○	—	×																																																																																																																										
鉄筋		○	×	—	t	○																																																																																																																										
足場		×	×	(×)	—	×	注)3																																																																																																																									
水抜パイプ		×	×	—	—	○	逆 T式橋台のみ必要に応じ計上																																																																																																																									

改 正	現 行	備 考																																																																								
<p>19章 管水路工</p> <p>19.1 管体基礎工 【省略】</p> <p>19.2 管体工</p> <p>19.2.1 管類布設工 【省略】</p> <p>19.2.2 管切断工</p> <p>1 適用 現場でダクタイル鋳鉄管及び強化プラスチック複合管、コンクリート管、鋼管およびポリエチレン管を切断する場合に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 管種別、口径別に必要箇所および延長を算出する。</p> <p>3 区分 区分は、口径、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>口径</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ダクタイル鋳鉄管</td> <td></td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>強化プラスチック複合管</td> <td></td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート管</td> <td></td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td>切断延長(管周長)</td> </tr> <tr> <td>ポリエチレン管</td> <td></td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>鋼管</u></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>○</u></td> <td style="text-align: center;"><u>箇所</u></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 切断し残った管については、産業廃棄物として考慮すること。</p> <p>(2) 口径区分 口径毎に区分する。 【省略】</p>	項目	区分	口径	単位	数量	備考	ダクタイル鋳鉄管		○	箇所			強化プラスチック複合管		○	箇所			コンクリート管		×	m		切断延長(管周長)	ポリエチレン管		○	箇所			<u>鋼管</u>		<u>○</u>	<u>箇所</u>			<p>19章 管水路工</p> <p>19.1 管体基礎工 【省略】</p> <p>19.2 管体工</p> <p>19.2.1 管類布設工 【省略】</p> <p>19.2.2 管切断工</p> <p>1 適用 現場でダクタイル鋳鉄管及び強化プラスチック複合管、コンクリート管、鋼管およびポリエチレン管を切断する場合に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 管種別、口径別に必要箇所および延長を算出する。</p> <p>3 区分 区分は、口径、規格とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>口径</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ダクタイル鋳鉄管</td> <td></td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>強化プラスチック複合管</td> <td></td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート管</td> <td></td> <td>×</td> <td>m</td> <td></td> <td>切断延長(管周長)</td> </tr> <tr> <td>ポリエチレン管</td> <td></td> <td>○</td> <td>箇所</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>鋼管</u></td> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>○</u></td> <td style="text-align: center;"><u>箇所</u></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 切断し残った管については、産業廃棄物として考慮すること。</p> <p>(2) 口径区分 口径毎に区分する。 【省略】</p>	項目	区分	口径	単位	数量	備考	ダクタイル鋳鉄管		○	箇所			強化プラスチック複合管		○	箇所			コンクリート管		×	m		切断延長(管周長)	ポリエチレン管		○	箇所			<u>鋼管</u>		<u>○</u>	<u>箇所</u>			<p>表内、字句の追加</p>
項目	区分	口径	単位	数量	備考																																																																					
ダクタイル鋳鉄管		○	箇所																																																																							
強化プラスチック複合管		○	箇所																																																																							
コンクリート管		×	m		切断延長(管周長)																																																																					
ポリエチレン管		○	箇所																																																																							
<u>鋼管</u>		<u>○</u>	<u>箇所</u>																																																																							
項目	区分	口径	単位	数量	備考																																																																					
ダクタイル鋳鉄管		○	箇所																																																																							
強化プラスチック複合管		○	箇所																																																																							
コンクリート管		×	m		切断延長(管周長)																																																																					
ポリエチレン管		○	箇所																																																																							
<u>鋼管</u>		<u>○</u>	<u>箇所</u>																																																																							

改 正	現 行	備 考																																				
<p>21章 ほ場整備工</p> <p>21.1 設計数量算出の基本的な考え方 【省略】</p> <p>21.2 整地工</p> <p>21.2.1 整地工 【省略】</p> <p>21.2.3 畦畔築立工</p> <p>1 適用 現地発生土及び購入土等により、畦畔を築立する<u>(法面整形含む)</u>場合に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 築立する畦畔延長と体積は、土量を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、現地発生土、購入土とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>発生土</th> <th>購入土</th> <th>単位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>畦畔延長</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>体 積</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 体積は、造成する畦畔の平均断面積×畦畔延長とする。</p> <p>4 数量算出方法</p> <p style="text-align: center;">標準断面図</p>  <p>注) 1. 畦畔の形状が、標準断面の範囲内の場合のみ適用できる。 2. 盛土材（購入土）は、締固めによる土量換算係数を考慮すること。 3. 泥炭地等においては、圧密沈下等を考慮し、盛土材を割増し計上することができる。</p> <p>【省略】</p>	項目 \ 区分	発生土	購入土	単位	数 量	備 考	畦畔延長	○	○	m			体 積	×	○	m ³			<p>21章 ほ場整備工</p> <p>21.1 設計数量算出の基本的な考え方 【省略】</p> <p>21.2 整地工</p> <p>21.2.1 整地工 【省略】</p> <p>21.2.3 畦畔築立工</p> <p>1 適用 現地発生土及び購入土等により、畦畔を築立する_____場合に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 築立する畦畔延長と体積は、土量を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、現地発生土、購入土とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>発生土</th> <th>購入土</th> <th>単位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>畦畔延長</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>体 積</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 体積は、造成する畦畔の平均断面積×畦畔延長とする。</p> <p>4 数量算出方法</p> <p style="text-align: center;">標準断面図</p>  <p>注) 1. 畦畔の形状が、標準断面の範囲内の場合のみ適用できる。 2. 盛土材（購入土）は、締固めによる土量換算係数を考慮すること。 3. 泥炭地等においては、圧密沈下等を考慮し、盛土材を割増し計上することができる。</p> <p>【省略】</p>	項目 \ 区分	発生土	購入土	単位	数 量	備 考	畦畔延長	○	○	m			体 積	×	○	m ³			<p>字句の追加</p>
項目 \ 区分	発生土	購入土	単位	数 量	備 考																																	
畦畔延長	○	○	m																																			
体 積	×	○	m ³																																			
項目 \ 区分	発生土	購入土	単位	数 量	備 考																																	
畦畔延長	○	○	m																																			
体 積	×	○	m ³																																			

改 正	現 行	備 考																																				
<p>21.4 畦畔整形工</p> <p>1 適用 水田のほ場整備工事の畦畔築立後における畦畔整形（法面整形及び水平面整形）に適用する。 <u>ただし、田差法面部の法面整形については適用しない。</u></p> <p>2 数量算出項目 畦畔整形面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、法面及び水平面整形部とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>法面及び水平面整形部</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>畦畔部</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>注) 田差法面については、2章 土 工 2.3 法面整形工として別途算出する。</u></p> <p>(2) 畦畔整形区分 畦畔整形区分は、次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>畦畔整形部</th> <th>一般畦畔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>農道（幅広畦畔）</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 数量算出方法 数量の算出は「1章 基本事項」によるほか次の方法による。</p> <p>4-1 一般畦畔</p> <p>(1) 整形面積（標準断面） $A_o = (1.13 + 0.50) \times \text{畦畔延長} \text{ (m}^2\text{)}$ $(0.40 \times 1.414 \times 2 + 0.50)$ <u>※畦畔法長 0.40 × 1.414 ÷ 0.566</u></p>	項目	区分	法面及び水平面整形部	単位	数量	備考	畦畔部	○		m ²			畦畔整形部	一般畦畔		農道（幅広畦畔）	<p>21.4 法面整形工</p> <p>1 適用 ほ場整備工事における法面整形に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 法面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、法面整形部とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>法面整形部</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>法面積</td> <td>○</td> <td></td> <td>m²</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 法面整形部区分 法面整形部区分は、次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>法面整形部</th> <th>一般畦畔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>田差法面（一般畦畔）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>V型トラフ、農道附帯畦畔</td> </tr> <tr> <td></td> <td>農道</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 数量算出方法 数量の算出は「1章 基本事項」によるほか次の方法による。</p> <p>4-1 一般畦畔</p> <p>1) 法面積（標準断面） $A_o = 1.13 \times \text{畦畔延長} \text{ (m}^2\text{)}$ $(0.40 \times 1.414 \times 2)$</p>	項目	区分	法面整形部	単位	数量	備考	法面積	○		m ²			法面整形部	一般畦畔		田差法面（一般畦畔）		V型トラフ、農道附帯畦畔		農道	<p>字句の改正</p> <p>字句の追加及び改正</p> <p>字句の改正</p> <p>字句の追加</p> <p>表内、字句の追加及び改正</p> <p>字句の追加</p> <p>表内、字句の削除及び改正</p> <p>標準図内、字句の追加、削除、改正</p> <p>字句の改正</p> <p>字句の追加</p> <p>”</p> <p>”</p>
項目	区分	法面及び水平面整形部	単位	数量	備考																																	
畦畔部	○		m ²																																			
畦畔整形部	一般畦畔																																					
	農道（幅広畦畔）																																					
項目	区分	法面整形部	単位	数量	備考																																	
法面積	○		m ²																																			
法面整形部	一般畦畔																																					
	田差法面（一般畦畔）																																					
	V型トラフ、農道附帯畦畔																																					
	農道																																					

改 正	現 行	備 考
<p>4-2 V型トラフ、農道附帯両畦畔</p>  <p>(1) 法面積 (標準断面) $A_o = 1.13 \times \text{水路延長 (m)} \times (0.40 \times 1.414 \times 2)$ ※法長 $0.40 \times 1.414 \approx 0.566$</p> <p>4-3 農道 (幅広畦畔) 整地工の流用土等によって造成される農道 (支線農道程度で厳密な転圧を要するもの、路盤改良を行うもの等は除く) の法面仕上げに適用する。</p>  <p>(1) 畦畔対応法面及び水平面積 (畦畔整形工) $A_o = (1.13 + B) \times \text{農道延長 (m)}$ (2) 田差部分法面積 (2章土工2.3法面整形工) $A_o = \Delta H \times 1.414 \times \text{農道延長 (m)}$</p> <p>【省略】</p>	<p>4-2 田差法面 (一般畦畔) 田差部分の法面整形について積算対象とする。ただし、ここでいう田差とは、畦畔の両側の計画標高の差である。</p> <p>(1) 法面積 $A_o = (h \times 1.414 \times 2 + \Delta H \times 1.414) \times L \text{ (m}^2\text{)}$ h : 畦畔高 (m) L : 畦畔延長 (m) ΔH : 田差 (m) = 前述のとおり</p> <p>この算式は法勾配 1 : 1.0 の場合であるので、勾配が異なる場合は別途算出のこと。 [例] 畦畔高 $h = 0.40\text{m}$、田差 $\Delta H = 0.50\text{m}$、畦畔延長 $L = 100\text{m}$、 $A_o = (0.40 \times 1.414 \times 2 + 0.50 \times 1.414) \times 100 = 183.8 \text{ (m}^2\text{)}$</p> <p>4-3 V型トラフ、農道附帯両畦畔</p>  <p>(1) 法面積 (標準断面) $A_o = 1.13 \times \text{水路延長 (m)} \times (0.40 \times 1.414 \times 2)$</p> <p>4-4 農道 整地工の流用土等によって造成される農道 (支線農道程度で厳密な転圧を要するもの、路盤改良を行うもの等は除く) の法面仕上げに適用する。</p>  <p>(1) 畦畔対応法面積 $A_o = 1.13 \times \text{農道延長 (m)}$ (2) 田差部分法面積 $A_o = \Delta H \times 1.414 \times \text{農道延長 (m)}$ この算式は法勾配 1 : 1.0 の場合であるので、勾配が異なる場合は別途算出のこと。</p> <p>【省略】</p>	<p>字句の削除 〃 字句の削除 式の削除 字句の削除 〃 〃 〃 〃 〃 式の削除 番号の改正 〃 〃 〃 番号の改正及び 字句の追加 〃 〃 字句の改正 字句の追加 〃 字句の改正 字句の削除</p>

改 正	現 行	備 考																																																																																																																																																																			
<p>21.5 暗渠排水工</p> <p>21.5.1 暗渠排水工の数量について 【省略】</p> <p>21.5.2 暗渠排水工</p> <p>1 適用 暗渠排水工を行う場合に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 暗渠排水の延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、掘削深、管種、口径、配線タイプ、<u> </u>田畑、<u>作業条件</u>、疎水材、小運搬、機種とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>掘削深</th> <th>管種</th> <th>口径</th> <th>配線タイプ</th> <th>田畑</th> <th>疎水材</th> <th>作業条件</th> <th>小運搬</th> <th>機種</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>暗渠排水管布設</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>暗渠排水掘削</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>平均掘削深は10cm単位</td> </tr> <tr> <td>暗渠排水埋戻し</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>疎水材投入</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <hr style="border: 1px solid red;"/> <p style="text-align: center; color: red;">[削除]</p> <p>(6) 田畑区分 田・畑区分は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td rowspan="2">田・畑</td> <td>水田・汎用田</td> </tr> <tr> <td>畑・草地</td> </tr> </table> <p>(7) 疎水材区分 疎水材の区分は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td rowspan="5">疎水材</td> <td rowspan="3">有機物</td> <td>チップ類 (カラマツ他)</td> </tr> <tr> <td>ソダ・ヨシ類、笹類</td> </tr> <tr> <td>モミガラ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉱質物</td> <td>砂・砂利類</td> </tr> <tr> <td>火山礫、火山灰</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>土壌改良材 (団粒促進材)、貝殻</td> </tr> </table> <p>(8) 作業条件区分 作業条件区分は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td rowspan="2">作業条件</td> <td>標準</td> </tr> <tr> <td>障害あり</td> </tr> </table> <p>【省略】</p>	区分	掘削深	管種	口径	配線タイプ	田畑	疎水材	作業条件	小運搬	機種	単位	数量	備考	暗渠排水管布設	×	○	○	○	—	×	×	×	○	m			暗渠排水掘削	○	○	×	×	—	×	○	×	○	m		平均掘削深は10cm単位	暗渠排水埋戻し	○	×	×	×	—	○	×	×	○	m			疎水材投入	×	×	×	×	—	○	×	○	○	m ³			田・畑	水田・汎用田	畑・草地	疎水材	有機物	チップ類 (カラマツ他)	ソダ・ヨシ類、笹類	モミガラ	鉱質物	砂・砂利類	火山礫、火山灰	その他	土壌改良材 (団粒促進材)、貝殻	作業条件	標準	障害あり	<p>21.5 暗渠排水工</p> <p>21.5.1 暗渠排水工の数量について 【省略】</p> <p>21.5.2 暗渠排水工</p> <p>1 適用 暗渠排水工を行う場合に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 暗渠排水の延長を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、掘削深、管種、口径、配線タイプ、<u>土質</u>、田畑、<u> </u>疎水材、小運搬、機種とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>掘削深</th> <th>管種</th> <th>口径</th> <th>配線タイプ</th> <th>土質</th> <th>田畑</th> <th>疎水材</th> <th>小運搬</th> <th>機種</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>暗渠排水管布設</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>暗渠排水掘削</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td>平均掘削深は10cm単位</td> </tr> <tr> <td>暗渠排水埋戻し</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>m</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>疎水材投入</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>×</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <p>(6) 土質区分 土質区分は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td rowspan="3">土質</td> <td>砂質土</td> </tr> <tr> <td>粘性土</td> </tr> <tr> <td>泥炭</td> </tr> </table> <p>(7) 田畑区分 田・畑区分は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td rowspan="2">田・畑</td> <td>水田・汎用田</td> </tr> <tr> <td>畑・草地</td> </tr> </table> <p>(8) 疎水材区分 疎水材の区分は、次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td rowspan="5">疎水材</td> <td rowspan="3">有機物</td> <td>チップ類 (カラマツ他)</td> </tr> <tr> <td>ソダ・ヨシ類、笹類</td> </tr> <tr> <td>モミガラ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉱質物</td> <td>砂・砂利類</td> </tr> <tr> <td>火山礫、火山灰</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>土壌改良材 (団粒促進材)、貝殻</td> </tr> </table> <hr style="border: 1px solid red;"/> <p style="text-align: center; color: red;">[追加]</p> <p>【省略】</p>	区分	掘削深	管種	口径	配線タイプ	土質	田畑	疎水材	小運搬	機種	単位	数量	備考	暗渠排水管布設	×	○	○	○	×	×	×	—	○	m			暗渠排水掘削	○	○	×	×	×	×	×	—	○	m		平均掘削深は10cm単位	暗渠排水埋戻し	○	×	×	×	○	○	×	—	○	m			疎水材投入	×	×	×	×	×	○	○	—	○	m ³			土質	砂質土	粘性土	泥炭	田・畑	水田・汎用田	畑・草地	疎水材	有機物	チップ類 (カラマツ他)	ソダ・ヨシ類、笹類	モミガラ	鉱質物	砂・砂利類	火山礫、火山灰	その他	土壌改良材 (団粒促進材)、貝殻	<p>字句の追加、削除</p> <p>表内、字句の追加及び削除</p> <p>字句の削除</p> <p>”</p> <p>表の削除</p> <p>番号の改正</p> <p>番号の改正</p> <p>字句の追加</p> <p>”</p> <p>表の追加</p>
区分	掘削深	管種	口径	配線タイプ	田畑	疎水材	作業条件	小運搬	機種	単位	数量	備考																																																																																																																																																									
暗渠排水管布設	×	○	○	○	—	×	×	×	○	m																																																																																																																																																											
暗渠排水掘削	○	○	×	×	—	×	○	×	○	m		平均掘削深は10cm単位																																																																																																																																																									
暗渠排水埋戻し	○	×	×	×	—	○	×	×	○	m																																																																																																																																																											
疎水材投入	×	×	×	×	—	○	×	○	○	m ³																																																																																																																																																											
田・畑	水田・汎用田																																																																																																																																																																				
	畑・草地																																																																																																																																																																				
疎水材	有機物	チップ類 (カラマツ他)																																																																																																																																																																			
		ソダ・ヨシ類、笹類																																																																																																																																																																			
		モミガラ																																																																																																																																																																			
	鉱質物	砂・砂利類																																																																																																																																																																			
		火山礫、火山灰																																																																																																																																																																			
その他	土壌改良材 (団粒促進材)、貝殻																																																																																																																																																																				
作業条件	標準																																																																																																																																																																				
	障害あり																																																																																																																																																																				
区分	掘削深	管種	口径	配線タイプ	土質	田畑	疎水材	小運搬	機種	単位	数量	備考																																																																																																																																																									
暗渠排水管布設	×	○	○	○	×	×	×	—	○	m																																																																																																																																																											
暗渠排水掘削	○	○	×	×	×	×	×	—	○	m		平均掘削深は10cm単位																																																																																																																																																									
暗渠排水埋戻し	○	×	×	×	○	○	×	—	○	m																																																																																																																																																											
疎水材投入	×	×	×	×	×	○	○	—	○	m ³																																																																																																																																																											
土質	砂質土																																																																																																																																																																				
	粘性土																																																																																																																																																																				
	泥炭																																																																																																																																																																				
田・畑	水田・汎用田																																																																																																																																																																				
	畑・草地																																																																																																																																																																				
疎水材	有機物	チップ類 (カラマツ他)																																																																																																																																																																			
		ソダ・ヨシ類、笹類																																																																																																																																																																			
		モミガラ																																																																																																																																																																			
	鉱質物	砂・砂利類																																																																																																																																																																			
		火山礫、火山灰																																																																																																																																																																			
その他	土壌改良材 (団粒促進材)、貝殻																																																																																																																																																																				

改 正	現 行	備 考																																							
<p>22章 農地造成工</p> <p>22.1 レーキドーザ除根・排根</p> <p>【省略】</p> <p>22.2 改良山成工</p> <p>22.2.1 改良山成工（基盤造成工）</p> <p>1 適用 畑地、草地の改良山成造成、区画整理、起伏、勾配修正工事の工事に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 基盤造成の土量を、区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、平均運土距離、総運土量、土質、<u>作業条件</u>とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>平均運土距離</th> <th>総運土量</th> <th>土質</th> <th>作業条件</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基盤造成</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <p>(5) <u>作業条件区分</u> <u>作業条件区分は、次のとおりとする。</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作業条件</th> <th>標 準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>障害あり</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 標 準：ほ場の形がおおむね四辺形である。地形が単調で運土計画線の方向がほぼそろっている。トラフィカビリティが常に良好である。等、順調な作業が期待できる場合。</p> <p>障害あり：ほ場外周に出入りが多い。地形が複雑で運土計画線の方向が不規則である。トラフィカビリティが不良で、スリップが多い。等、順調な作業が期待できない場合。</p>	項目	区分	平均運土距離	総運土量	土質	作業条件	単位	数量	備考	基盤造成	○	○	○	○	○	m ³			作業条件	標 準	障害あり	<p>22章 農地造成工</p> <p>22.1 レーキドーザ除根・排根</p> <p>【省略】</p> <p>22.2 改良山成工</p> <p>22.2.1 改良山成工（基盤造成工）</p> <p>1 適用 畑地、草地の改良山成造成、区画整理、起伏、勾配修正工事の工事に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 基盤造成の土量を、区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、平均運土距離、総運土量、土質 _____ とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>平均運土距離</th> <th>総運土量</th> <th>土質</th> <th>_____</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基盤造成</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>_____</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p style="text-align: center;">[追加]</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>	項目	区分	平均運土距離	総運土量	土質	_____	単位	数量	備考	基盤造成	○	○	○	○	_____	m ³			<p>字句の追加</p> <p>表内、字句の追加</p> <p>字句の追加</p> <p>”</p> <p>表の追加</p> <p>字句の追加</p> <p>字句の追加</p>
項目	区分	平均運土距離	総運土量	土質	作業条件	単位	数量	備考																																	
基盤造成	○	○	○	○	○	m ³																																			
作業条件	標 準																																								
	障害あり																																								
項目	区分	平均運土距離	総運土量	土質	_____	単位	数量	備考																																	
基盤造成	○	○	○	○	_____	m ³																																			

新 旧 対 照 表

改 正	現 行	備 考																																							
<p>22.2.2 改良山成工（表土工）</p> <p>1 適用 改良山成工における表土の剥取り、埋戻し及び整地作業に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 表土工の土量を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、平均運土距離、総運土量、土質、<u>作業条件</u>とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>平均運土距離</th> <th>総運土量</th> <th>土質</th> <th><u>作業条件</u></th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基盤造成</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td><u>○</u></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <p>(5) <u>作業条件区分</u> <u>作業条件区分は、次のとおりとする。</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作業条件</th> <th>標 準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>障害あり</u></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 標 準：<u>ほ場の形がおおむね四辺形である。地形が単調で運土計画線の方向がほぼそろっている。トラフィカビリティが常に良好である。等、順調な作業が期待できる場合。</u></p> <p><u>障害あり：<u>ほ場外周に出入りが多い。地形が複雑で運土計画線の方向が不規則である。トラフィカビリティが不良で、スリップが多い。等、順調な作業が期待できない場合。</u></u></p>	項目	区分	平均運土距離	総運土量	土質	<u>作業条件</u>	単位	数量	備考	基盤造成		○	○	○	<u>○</u>	m ³			作業条件	標 準	<u>障害あり</u>	<p>22.2.2 改良山成工（表土工）</p> <p>1 適用 改良山成工における表土の剥取り、埋戻し及び整地作業に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 表土工の土量を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、平均運土距離、総運土量、土質_____とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>平均運土距離</th> <th>総運土量</th> <th>土質</th> <th>_____</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基盤造成</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>_____</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p style="text-align: center;">[追加]</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>	項目	区分	平均運土距離	総運土量	土質	_____	単位	数量	備考	基盤造成		○	○	○	_____	m ³			<p>字句の追加</p> <p>表内、字句の追加</p> <p>字句の追加</p> <p>”</p> <p>表の追加</p> <p>字句の追加</p> <p>字句の追加</p>
項目	区分	平均運土距離	総運土量	土質	<u>作業条件</u>	単位	数量	備考																																	
基盤造成		○	○	○	<u>○</u>	m ³																																			
作業条件	標 準																																								
	<u>障害あり</u>																																								
項目	区分	平均運土距離	総運土量	土質	_____	単位	数量	備考																																	
基盤造成		○	○	○	_____	m ³																																			

改 正	現 行	備 考																																									
<p>22.5 土壤改良資材散布</p> <p>1 適 用 農地造成工事のライムソーによる土壤改良材散布に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 土壤改良資材散布の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区 分 区分は、土改材散布量、傾斜、<u>作業条件</u>とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>土改材散布量</th> <th>傾 斜</th> <th><u>作業条件</u></th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土壤改良材散布</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 土改材散布量区分 土改材散布量を ha 当り散布量ごとに算出する。</p> <p>(3) 傾斜区分 傾斜区分は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="4">傾 斜</th> <td>0° ～ 8° 未満</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8° ～12° 未満</td> </tr> <tr> <td>12° ～15° 未満</td> </tr> <tr> <td>15° ～18° 未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) <u>作業条件区分</u> <u>作業条件区分は、次のとおりとする。</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"><u>作業条件</u></th> <th><u>標 準</u></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>障害あり</u></td> </tr> </tbody> </table>	項目 \ 区分	土改材散布量	傾 斜	<u>作業条件</u>	単 位	数 量	備 考	土壤改良材散布	○	○	○	ha			傾 斜	0° ～ 8° 未満	8° ～12° 未満	12° ～15° 未満	15° ～18° 未満	<u>作業条件</u>	<u>標 準</u>	<u>障害あり</u>	<p>22.5 土壤改良資材散布</p> <p>1 適 用 農地造成工事のライムソーによる土壤改良材散布に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 土壤改良資材散布の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区 分 区分は、土改材散布量、傾斜_____とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>土改材散布量</th> <th>傾 斜</th> <th>_____</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土壤改良材散布</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">_</td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 土改材散布量区分 土改材散布量を ha 当り散布量ごとに算出する。</p> <p>(3) 傾斜区分 傾斜区分は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="4">傾 斜</th> <td>0° ～ 8° 未満</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8° ～12° 未満</td> </tr> <tr> <td>12° ～15° 未満</td> </tr> <tr> <td>15° ～18° 未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>_____</p> <p>_____</p> <p style="text-align: center;">[追加]</p>	項目 \ 区分	土改材散布量	傾 斜	_____	単 位	数 量	備 考	土壤改良材散布	○	○	_	ha			傾 斜	0° ～ 8° 未満	8° ～12° 未満	12° ～15° 未満	15° ～18° 未満	<p>字句の追加</p> <p>表内、字句の追加</p> <p>字句の追加</p> <p>”</p> <p>表の追加</p>
項目 \ 区分	土改材散布量	傾 斜	<u>作業条件</u>	単 位	数 量	備 考																																					
土壤改良材散布	○	○	○	ha																																							
傾 斜	0° ～ 8° 未満																																										
	8° ～12° 未満																																										
	12° ～15° 未満																																										
	15° ～18° 未満																																										
<u>作業条件</u>	<u>標 準</u>																																										
	<u>障害あり</u>																																										
項目 \ 区分	土改材散布量	傾 斜	_____	単 位	数 量	備 考																																					
土壤改良材散布	○	○	_	ha																																							
傾 斜	0° ～ 8° 未満																																										
	8° ～12° 未満																																										
	12° ～15° 未満																																										
	15° ～18° 未満																																										

改 正	現 行	備 考																																									
<p>22.6 有機質資材散布</p> <p>1 適 用 農用地造成工事の有機質資材散布を行う場合に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 有機質資材散布の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区 分 区分は、土質、乾湿、傾斜、散布量、<u>作業条件</u>とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>土 質</th> <th>乾 湿</th> <th>傾 斜</th> <th>散布量</th> <th><u>作業条件</u></th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有機質資材散布</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <p>(6) <u>作業条件区分</u> <u>作業条件区分は、次のとおりとする。</u></p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;"><u>作業条件</u></td> <td style="text-align: center;"><u>良 好</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>普 通</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>やや不良</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>不 良</u></td> </tr> </table>	項目 \ 区分	土 質	乾 湿	傾 斜	散布量	<u>作業条件</u>	単 位	数 量	備 考	有機質資材散布	○	○	○	○	○	ha			<u>作業条件</u>	<u>良 好</u>	<u>普 通</u>	<u>やや不良</u>	<u>不 良</u>	<p>22.6 有機質資材散布</p> <p>1 適 用 農用地造成工事の有機質資材散布を行う場合に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 有機質資材散布の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区 分 区分は、土質、乾湿、傾斜、散布量_____とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目 \ 区分</th> <th>土 質</th> <th>乾 湿</th> <th>傾 斜</th> <th>散布量</th> <th>_____</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有機質資材散布</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">_</td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p style="text-align: center;">[追加]</p>	項目 \ 区分	土 質	乾 湿	傾 斜	散布量	_____	単 位	数 量	備 考	有機質資材散布	○	○	○	○	_	ha			<p>字句の追加</p> <p>表内、字句の追加</p> <p>字句の追加</p> <p>”</p> <p>表の追加</p>
項目 \ 区分	土 質	乾 湿	傾 斜	散布量	<u>作業条件</u>	単 位	数 量	備 考																																			
有機質資材散布	○	○	○	○	○	ha																																					
<u>作業条件</u>	<u>良 好</u>																																										
	<u>普 通</u>																																										
	<u>やや不良</u>																																										
	<u>不 良</u>																																										
項目 \ 区分	土 質	乾 湿	傾 斜	散布量	_____	単 位	数 量	備 考																																			
有機質資材散布	○	○	○	○	_	ha																																					

改 正	現 行	備 考																																																													
<p>22.7 碎 土</p> <p>1 適 用 農地造成工事のディスクハローによる碎土作業に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 碎土の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区 分 区分は、ほ場長辺の長さ、土質、<u>作業条件</u>、傾斜、掛回数とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>ほ場長辺の長さ</th> <th>土 質</th> <th><u>作業条件</u></th> <th>傾 斜</th> <th>掛回数</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>碎 土</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <p><u>(4) 作業条件区分</u> 作業条件区分は、次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作業条件</th> <th>標 準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>障害あり</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(5) 傾斜区分</u> 傾斜区分は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="4">傾 斜</th> <td>0° ~ 8° 未満</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8° ~ 12° 未満</td> </tr> <tr> <td>12° ~ 15° 未満</td> </tr> <tr> <td>15° ~ 18° 未満</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(6) 掛回数区分</u> 掛回数区分は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">掛回数</th> <td>1回掛</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2回掛</td> </tr> <tr> <td>3回掛</td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p>	項目	区分	ほ場長辺の長さ	土 質	<u>作業条件</u>	傾 斜	掛回数	単 位	数 量	備 考	碎 土		○	○	○	○	○	ha			作業条件	標 準	障害あり	傾 斜	0° ~ 8° 未満	8° ~ 12° 未満	12° ~ 15° 未満	15° ~ 18° 未満	掛回数	1回掛	2回掛	3回掛	<p>22.7 碎 土</p> <p>1 適 用 農地造成工事のディスクハローによる碎土作業に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 碎土の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区 分 区分は、ほ場長辺の長さ、土質、<u> </u>傾斜、掛回数とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>ほ場長辺の長さ</th> <th>土 質</th> <th><u> </u></th> <th>傾 斜</th> <th>掛回数</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>碎 土</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td><u> </u></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <p><u> </u></p> <p><u> </u></p> <p><u> </u> <u>[追加]</u></p> <p><u>(4) 傾斜区分</u> 傾斜区分は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="4">傾 斜</th> <td>0° ~ 8° 未満</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8° ~ 12° 未満</td> </tr> <tr> <td>12° ~ 15° 未満</td> </tr> <tr> <td>15° ~ 18° 未満</td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(5) 掛回数区分</u> 掛回数区分は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">掛回数</th> <td>1回掛</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2回掛</td> </tr> <tr> <td>3回掛</td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p>	項目	区分	ほ場長辺の長さ	土 質	<u> </u>	傾 斜	掛回数	単 位	数 量	備 考	碎 土		○	○	<u> </u>	○	○	ha			傾 斜	0° ~ 8° 未満	8° ~ 12° 未満	12° ~ 15° 未満	15° ~ 18° 未満	掛回数	1回掛	2回掛	3回掛	<p>字句の追加</p> <p>表内、字句の追加</p> <p>字句の追加</p> <p>”</p> <p>表の追加</p> <p>番号の改正</p> <p>番号の改正</p>
項目	区分	ほ場長辺の長さ	土 質	<u>作業条件</u>	傾 斜	掛回数	単 位	数 量	備 考																																																						
碎 土		○	○	○	○	○	ha																																																								
作業条件	標 準																																																														
	障害あり																																																														
傾 斜	0° ~ 8° 未満																																																														
	8° ~ 12° 未満																																																														
	12° ~ 15° 未満																																																														
	15° ~ 18° 未満																																																														
掛回数	1回掛																																																														
	2回掛																																																														
	3回掛																																																														
項目	区分	ほ場長辺の長さ	土 質	<u> </u>	傾 斜	掛回数	単 位	数 量	備 考																																																						
碎 土		○	○	<u> </u>	○	○	ha																																																								
傾 斜	0° ~ 8° 未満																																																														
	8° ~ 12° 未満																																																														
	12° ~ 15° 未満																																																														
	15° ~ 18° 未満																																																														
掛回数	1回掛																																																														
	2回掛																																																														
	3回掛																																																														

改 正	現 行	備 考																																																										
<p>22.14 排根線除去</p> <p>1 適 用 レーキドーザによる排根線除去工事および不整地運搬車による残根処理工事に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 排根線除去の体積および残根処理の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区 分 区分は、平均断面積、<u>作業条件</u>とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>平均断面積</th> <th><u>作業条件</u></th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>排根線除去</td> <td></td> <td>○</td> <td><u>○</u></td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>残根処理</td> <td></td> <td>×</td> <td><u>×</u></td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 平均断面積区分 平均断面積区分は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">平均断面積</td> <td>2 m²未満</td> </tr> <tr> <td>2 以上 4 m²未満</td> </tr> <tr> <td>4 以上 6 m²未満</td> </tr> <tr> <td>6 以上 8 m²未満</td> </tr> <tr> <td>8 m²以上</td> </tr> </table> <p>注) 平均断面積 (m²) = $\frac{\text{排根線体積 (m}^3\text{)}}{\text{排根線延長 (m)}}$</p> <p>(3) <u>作業条件区分</u> <u>作業条件区分は、次のとおりとする。</u></p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;"><u>作業条件</u></td> <td><u>良 好</u></td> </tr> <tr> <td><u>普 通</u></td> </tr> <tr> <td><u>不 良</u></td> </tr> </table>	項目	区分	平均断面積	<u>作業条件</u>	単 位	数 量	備 考	排根線除去		○	<u>○</u>	m ³			残根処理		×	<u>×</u>	ha			平均断面積	2 m ² 未満	2 以上 4 m ² 未満	4 以上 6 m ² 未満	6 以上 8 m ² 未満	8 m ² 以上	<u>作業条件</u>	<u>良 好</u>	<u>普 通</u>	<u>不 良</u>	<p>22.14 排根線除去</p> <p>1 適 用 レーキドーザによる排根線除去工事および不整地運搬車による残根処理工事に適用する。</p> <p>2 数量算出項目 排根線除去の体積および残根処理の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区 分 区分は、平均断面積_____とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>区分</th> <th>平均断面積</th> <th>_____</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>排根線除去</td> <td></td> <td>○</td> <td>_____</td> <td>m³</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>残根処理</td> <td></td> <td>×</td> <td>_____</td> <td>ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 平均断面積区分 平均断面積区分は次のとおりとする。</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">平均断面積</td> <td>2 m²未満</td> </tr> <tr> <td>2 以上 4 m²未満</td> </tr> <tr> <td>4 以上 6 m²未満</td> </tr> <tr> <td>6 以上 8 m²未満</td> </tr> <tr> <td>8 m²以上</td> </tr> </table> <p>注) 平均断面積 (m²) = $\frac{\text{排根線体積 (m}^3\text{)}}{\text{排根線延長 (m)}}$</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p style="text-align: center;"><u>[追加]</u></p>	項目	区分	平均断面積	_____	単 位	数 量	備 考	排根線除去		○	_____	m ³			残根処理		×	_____	ha			平均断面積	2 m ² 未満	2 以上 4 m ² 未満	4 以上 6 m ² 未満	6 以上 8 m ² 未満	8 m ² 以上	<p>字句の追加</p> <p>表内、字句の追加</p> <p>字句の追加</p> <p>”</p> <p>表の追加</p>
項目	区分	平均断面積	<u>作業条件</u>	単 位	数 量	備 考																																																						
排根線除去		○	<u>○</u>	m ³																																																								
残根処理		×	<u>×</u>	ha																																																								
平均断面積	2 m ² 未満																																																											
	2 以上 4 m ² 未満																																																											
	4 以上 6 m ² 未満																																																											
	6 以上 8 m ² 未満																																																											
	8 m ² 以上																																																											
<u>作業条件</u>	<u>良 好</u>																																																											
	<u>普 通</u>																																																											
	<u>不 良</u>																																																											
項目	区分	平均断面積	_____	単 位	数 量	備 考																																																						
排根線除去		○	_____	m ³																																																								
残根処理		×	_____	ha																																																								
平均断面積	2 m ² 未満																																																											
	2 以上 4 m ² 未満																																																											
	4 以上 6 m ² 未満																																																											
	6 以上 8 m ² 未満																																																											
	8 m ² 以上																																																											

改 正	現 行	備 考																																														
<p>22.15 混層耕（Ⅱ）</p> <p>1 適用 耕起深 40 cm までの深耕に適用する。 ただし、粗粒質火山灰性土壌で 2 連プラウによる作業が可能な地域に限り適用する。</p> <p>2 数量算出項目 混層耕の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、ほ場長辺の長さ、土質、乾湿、<u>作業条件</u>、傾斜とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分 項目</th> <th style="text-align: center;">ほ場長辺 の長さ</th> <th style="text-align: center;">土 質</th> <th style="text-align: center;">乾 湿</th> <th style="text-align: center;"><u>作業条件</u></th> <th style="text-align: center;">傾 斜</th> <th style="text-align: center;">単 位</th> <th style="text-align: center;">数 量</th> <th style="text-align: center;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">混層耕</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;"><u>○</u></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <p><u>(5) 作業条件区分</u> <u>作業条件区分は、次のとおりとする。</u></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;"><u>作業条件</u></td> <td style="text-align: center;"><u>良 好</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>普 通</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>不 良</u></td> </tr> </table> <p><u>(6) 傾斜区分</u> 傾斜区分は次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">傾 斜</td> <td style="text-align: center;">0° ～ 3° 未満</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3° ～ 8° 未満</td> </tr> </table> <p>【省略】</p>	区分 項目	ほ場長辺 の長さ	土 質	乾 湿	<u>作業条件</u>	傾 斜	単 位	数 量	備 考	混層耕	○	○	○	<u>○</u>	○	ha			<u>作業条件</u>	<u>良 好</u>	<u>普 通</u>	<u>不 良</u>	傾 斜	0° ～ 3° 未満	3° ～ 8° 未満	<p>22.15 混層耕（Ⅱ）</p> <p>1 適用 耕起深 40 cm までの深耕に適用する。 ただし、粗粒質火山灰性土壌で 2 連プラウによる作業が可能な地域に限り適用する。</p> <p>2 数量算出項目 混層耕の面積を区分ごとに算出する。</p> <p>3 区分 区分は、ほ場長辺の長さ、土質、乾湿_____、傾斜とする。</p> <p>(1) 数量算出項目及び区分一覧表</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分 項目</th> <th style="text-align: center;">ほ場長辺 の長さ</th> <th style="text-align: center;">土 質</th> <th style="text-align: center;">乾 湿</th> <th style="text-align: center;">_____</th> <th style="text-align: center;">傾 斜</th> <th style="text-align: center;">単 位</th> <th style="text-align: center;">数 量</th> <th style="text-align: center;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">混層耕</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">_</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">ha</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【省略】</p> <p>_____</p> <p style="text-align: right;">_____ <u>[追加]</u></p> <p><u>(5) 傾斜区分</u> 傾斜区分は次のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">傾 斜</td> <td style="text-align: center;">0° ～ 3° 未満</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3° ～ 8° 未満</td> </tr> </table> <p>【省略】</p>	区分 項目	ほ場長辺 の長さ	土 質	乾 湿	_____	傾 斜	単 位	数 量	備 考	混層耕	○	○	○	_	○	ha			傾 斜	0° ～ 3° 未満	3° ～ 8° 未満	<p>字句の追加</p> <p>表内、字句の追加</p> <p>字句の追加 ”</p> <p>表の追加</p> <p>番号の改正</p>
区分 項目	ほ場長辺 の長さ	土 質	乾 湿	<u>作業条件</u>	傾 斜	単 位	数 量	備 考																																								
混層耕	○	○	○	<u>○</u>	○	ha																																										
<u>作業条件</u>	<u>良 好</u>																																															
	<u>普 通</u>																																															
	<u>不 良</u>																																															
傾 斜	0° ～ 3° 未満																																															
	3° ～ 8° 未満																																															
区分 項目	ほ場長辺 の長さ	土 質	乾 湿	_____	傾 斜	単 位	数 量	備 考																																								
混層耕	○	○	○	_	○	ha																																										
傾 斜	0° ～ 3° 未満																																															
	3° ～ 8° 未満																																															